

令和2年度  
消防防災年報

福 井 県  
＜令和3年刊行＞



# 目 次

## 〔消 防 編〕

### 第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制	1
第2表 消防の概況表	2

### 第2章 火災の実態

1 概況	4
2 出火件数および損害額の状況	4
3 出火原因	4
4 火災による死者の状況	5
第1表 1日当たりの損害状況	5
第2表 令和2年火災発生状況と前年比較表	6
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移	7
第2図 過去10年間の死傷者数等の推移	7
第3図 火災発生件数の内訳	8
第4図 うち建物火災件数の内訳	8
第5図 損害額の内訳	8
第3表 令和2年月別火災発生状況表	9
第4表 市町別火災発生状況表	10
第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率	12
第6表 全火災の出火原因別損害状況表	14
第6図 全火災の出火原因別状況	14
第7表 死者の死因別発生状況表	15
第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表	15

### 第3章 救急業務の実態

1 救急体制	16
2 救急医療体制	16
3 救急活動状況	16
第1表 救急体制状況表	17
第2表 医療機関状況表	17
第3表 救急活動状況表	17
第4表 高速自動車道における救急活動状況表	17
第1図 過去10年間の救急活動の推移	18
第2図 出場件数の事故種別内訳	18
第3図 搬送人員の事故種別内訳	18

### 第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度	19
第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表	19
2 消防設備士試験および講習の状況	20
第2表 消防設備士試験実施状況表	20
第3表 消防設備士法定講習実施状況表	20

### 第5章 危険物規制

1 概況	21
第1図 危険物施設構成比	21
第2図 過去10年間の危険物施設の推移	21
第1表 施設別危険物施設数	22
第2表 指定数量別および類別危険物施設数	23

第3表	危険物施設に対する立入検査状況	24
第4表の1	容量別屋外タンク貯蔵所数	25
第4表の2	品名別屋外タンク貯蔵所数	25
第5表	危険物取扱者試験実施状況	26
第6表	危険物取扱者保安講習実施状況	26
2	危険物施設の火災および漏えい事故等	27
第7表	過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数	27

## 第6章 消防の概要

1	消防の組織	28
2	消防施設	28
3	民間防火組織	28
4	表彰	29
5	消防の現況	29
第1表	消防職団員数の推移	29
第2表	消防機関の現況	29
第3表	消防の概況	30
第4表	階級別消防職員数	31
第5表	階級別非常勤消防団員数	32
第6表	年齢別消防吏員および消防団員数	33
第7表	在職年数別消防吏員および消防団員数	34
第8表	消防ポンプ自動車等現有数（消防本部および署）	35
第9表	消防ポンプ自動車等現有数（消防団）	36
第10表	化学消火薬剤備蓄状況	37
第11表	消防水利の状況	38
第12表	消防機関の出動状況	39
第13表	消防吏員および団員の公務による死傷者数	39
第14表	火災通報施設等の現況	40
第15表	無線通信施設等の現況	41
第16表	幼年消防クラブの現況	42
第17表	少年消防クラブの現況	43
第18表	女性防火クラブの現況および活動状況	44
第19表	消防表彰受賞状況	45

## 第7章 消防教育訓練

1	消防学校の概要	46
2	教育訓練	46
第1表	令和2年度消防本部別受講者数	47
第2表	令和2年度消防学校教育訓練実施状況	48
第3表	令和2年度消防大学校派遣者数	48

## [防災編]

### 第1章 災害の発生状況

1	令和2年中の災害発生状況	49
第1表	令和2年中の災害発生状況	49
2	過去5年間の災害発生状況	51

### 第2章 令和2年の天候概況

1	天候の特徴	60
2	月別気象概況	61

<b>第3章 防災訓練の実施状況</b>	
Ⅰ 総合防災訓練	6 4
Ⅱ 原子力防災訓練	6 8
Ⅲ 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況	7 2
Ⅳ 市町別自主防災組織の結成状況	7 3

<b>第4章 防災行政無線利用状況</b>	
1 無線局の現況	7 4
2 利用状況	7 6
3 多重局通信回数集計表	7 8
4 端末局無線通信回数調	7 9
5 非常通信訓練実施状況	8 0

<b>第5章 防災ヘリコプターの運航体制</b>	
1 運航基地	8 2
2 組織図	8 2
3 運航時間	8 2
4 活動業務	8 2
第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）	8 3

<b>第6章 衛星車載局の運用体制</b>	
1 収容	8 4
2 運用組織図	8 4
3 運用	8 4
4 主な仕様	8 4

## [保安編]

<b>第1章 高压ガス保安</b>	
概況	8 5
第1表 市町別高压ガス関係事業所数	8 6
第2表 ガスの種類別高压ガス製造事業所数	8 7
第3表 処理量別および製造形態別製造事業所数	8 8
第4表 高压ガス貯槽数	8 9
第5表 令和2年度高压ガス製造保安責任者試験実施状況	9 0
第6表 令和2年度高压ガス販売主任者試験実施状況	9 1
第7表 令和2年度液化石油ガス設備士試験実施状況	9 1
第8表 令和2年度高压ガス関係免状交付状況	9 1
第9表 令和2年度高压ガス関係申請状況	9 2
第10表 令和2年度高压ガス事故発生状況	9 3

<b>第2章 火薬類保安</b>	
概況	9 4
第1表 火薬類関係事業所数	9 4
第2表 銃砲関係事業所数	9 5
第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移	9 5
第4表 火薬類取扱および三種火薬類製造保安責任者試験実施状況	9 5
第5表 令和2年度火薬類保安講習関係講習会実施状況	9 5
第6表 令和2年度火薬類許可申請等の状況	9 6
第7表 令和2年度事故発生状況	9 7



# 消 防 編

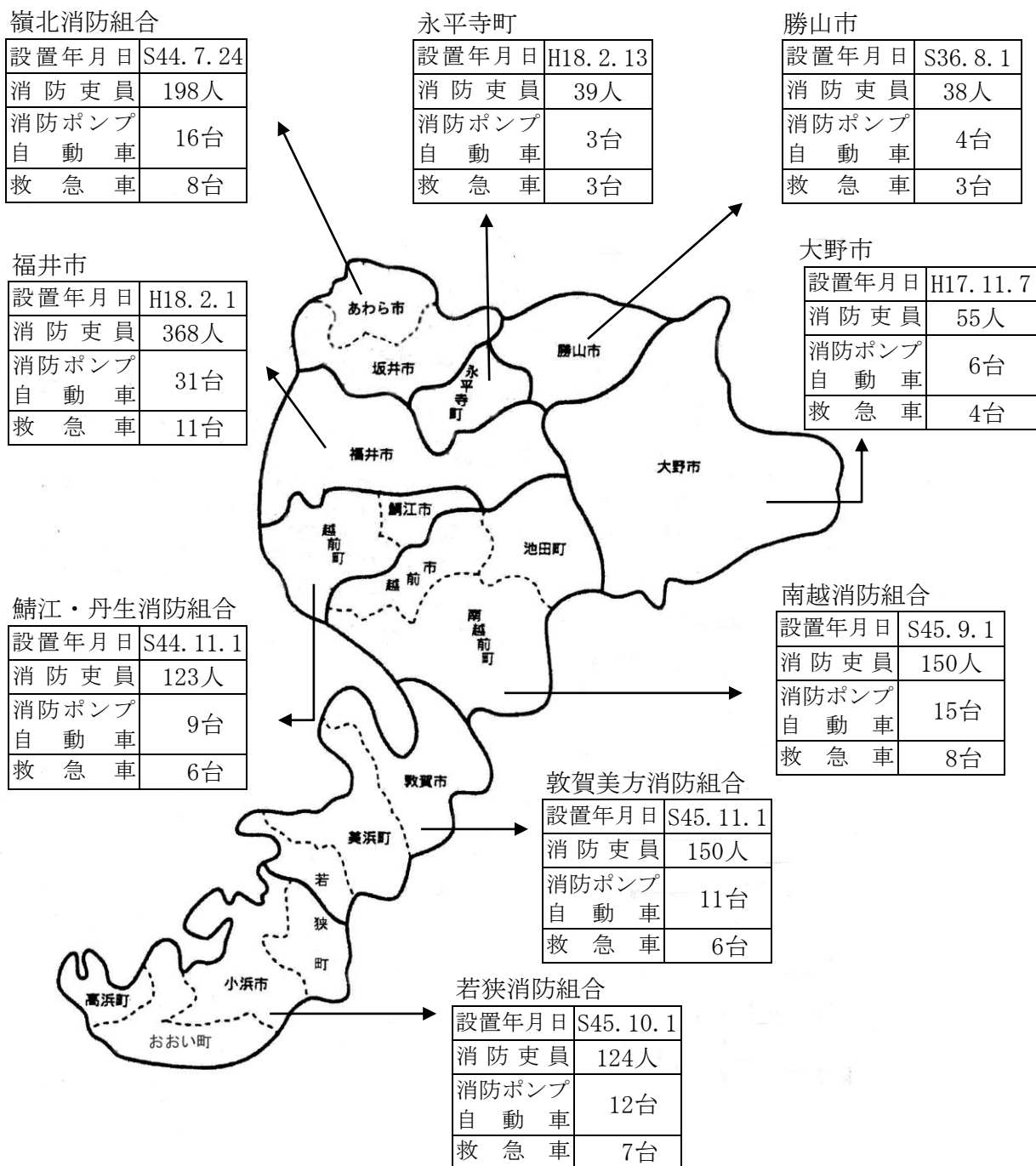
---





# 第1章 消防の概要

## 第1表 福井県常備消防体制(令和3年4月1日現在)



※台数については、消防団分を含まない

第2表 消防の概況表

面積（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」令和3年1月1日現在）		4,190.52	km <sup>2</sup>	
平成27年国勢調査（確定値）人口		786,740	人	
推計人口（令和3年4月1日現在）		763,185	人	
推計世帯数（令和3年4月1日現在）		291,783	世帯	
65歳以上高齢者数（福井県の推計人口 令和2年10月1日現在）		233,076	人	
高齢化率（ " " ）		31.0	%	
地域別人口	福井坂井地区（平成27年国勢調査 確定値）	404,796	人	
	奥越地区	57,234	人	
	丹南地区	184,783	人	
	嶺南地区	139,927	人	
令和2年火災状況	火災件数	171	件	
	うち	建物火災件数	101	件
		林野火災件数	1	件
	建物焼損面積	8,998	m <sup>2</sup>	
	林野焼損面積	5	a	
	損害額	588,667	千円	
	うち	建物火災	543,277	千円
	死者（自殺者数内数）	11（2）	人	
負傷者	31	人		
出火率（人口1万人に対する出火件数） ※人口：令和2年3月31日現在		2.20	件	
令和2年救急状況	救急出場件数	26,253	件	
	うち	急病	16,352	件
		交通事故	1,851	件
		一般負傷	4,356	件
搬送人員		24,822	人	
消防本部・署所	消防本部	単独設置市	3	
		単独設置町	1	
		消防一部事務組合	5	
	消防署数		19	
	出張所数		27	
	消防職員	消防吏員	1,245	人
その他の職員		23	人	
合計		1,268	人	
消防団	消防団数		18	
	分団数		238	
	消防団員	非常勤団員数	5,874	人
		常勤団員数	—	
合計		5,874	人	

消 防 車 両 等	区 分		消防本部・署所	消 防 団		
	普通消防ポンプ自動車		52 台	135 台		
水槽付消防ポンプ自動車		23 台	—			
はしご付消防ポンプ自動車		12 台	—			
屈折はしご付消防ポンプ自動車		2 台	—			
大型高所放水車		1 台	—			
泡原液搬送車		2 台	—			
化学消防自動車		15 台	—			
指揮車		20 台	—			
小型動力ポンプ付積載車		—	201 台			
小型動力ポンプ(車両に積載していないもの)		27 台	98 台			
広報車		30 台	—			
資機材搬送車		27 台	—			
屈折放水塔車		0 台	—			
救急自動車		56 台	—			
救助工作車		15 台	—			
その他の車両		41 台	—			
消 防 水 利	消火栓	公 設		18,765 個		
		私 設		98 個		
	防火水槽	100m <sup>3</sup> 以上		120 基		
		60m <sup>3</sup> 以上 100m <sup>3</sup> 未満		142 基		
		40m <sup>3</sup> 以上 60m <sup>3</sup> 未満		4,894 基		
		20m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満		487 基		
	井戸	公 設		80 個		
		私 設		—		
そ の 他				573 個		
通 信 施 設 等	消防用無線		基地局および固定局		67 局	
			移動局		1,091 局	
	防災行政無線	市町	同報無線	同報親局		28 局
				同報受信設備		25,845 局
		移動無線	基地局		15 局	
			移動局		671 局	
		県	固定系	地上系		28 局
				衛星系		69 局
	移動系	基地局等		19 局		
		移動局等		222 局		
	テレビ監視装置				2 基	
火災報知専用電話				103 回線		
消防電話				224 回線		

## 第2章 火災の実態

### 1 概況

令和2年中の火災発生件数は171件、死者11人、負傷者31人、損害額5億8,866万円、焼損棟数152棟、り災世帯数70世帯、り災人員180人となっており、一日当たりの損害状況は第1表のとおりで、概ね毎日161万円が灰じんに帰していることになる。

火災発生件数、損害額および死傷者数の過去10年間の推移は、第1図、第2図のとおりであり、火災発生件数においては、平成25年中が最も多く、平成29年中が最も少ない。

### 2 出火件数および損害額の状況

#### (1) 出火件数

総出火件数は171件で、これを火災種別ごとにみると、第3図のように建物火災が101件で全体の59.1%を占め、車両火災32件(18.7%)、林野火災1件(0.6%)、船舶火災1件(0.6%)、その他火災36件(21.0%)となっている。

また、建物火災だけでみると、第4図のように一般住宅が42件(41.6%)で最も多く、次いで工場11件(10.9%)、複合用途(特定)10件(9.9%)、共同住宅6件(5.9%)、併用住宅3件(3.0%)、物品販売店舗等3件(3.0%)、事務所3件(3.0%)、その他23件(22.8%)となっている。

第3表の月別火災発生状況表を見ると、6月の発生件数が25件で最も多く、7月が5件と最も少ない。

第4表では、市町別の火災発生状況を示している。

#### (2) 損害額

損害額は5億8,867万円で、これを火災種別ごとにみると、第5図のように建物火災が5億4,328万円で全体の92.3%を占め、次いで車両火災約3,643万円(6.2%)となっている。火災1件当たりの損害額は約344万円となる。

第3表の月別火災発生状況表をみると、9月の損害額が約2億7,824万円で最も多く、7月が約191万円で最も少ない。

### 3 出火原因

全火災の出火原因別状況を表したのが第6図であり、出火原因別損害状況を表したのが第6表である。

第6図をみると、出火原因ではこんろが最も多く14件で8.2%を占め、次いで、たばこ10件(5.8%)、電気機器10件(5.8%)、火入れ9件(5.3%)、電灯電話等の配線8件(4.7%)などとなっている。

#### 4 火災による死者の状況

死者の死因別発生状況を表したのが第7表であり、死者の経過別、年齢別発生状況を表したのが第8表である。

第7表をみると、死因では、一酸化炭素中毒・窒息が5人、火傷が4人、自殺が2人となっている。

また、令和2年中の死者に占める高齢者は7人で全体の約6割となった。

第1表 1日当たりの損害状況

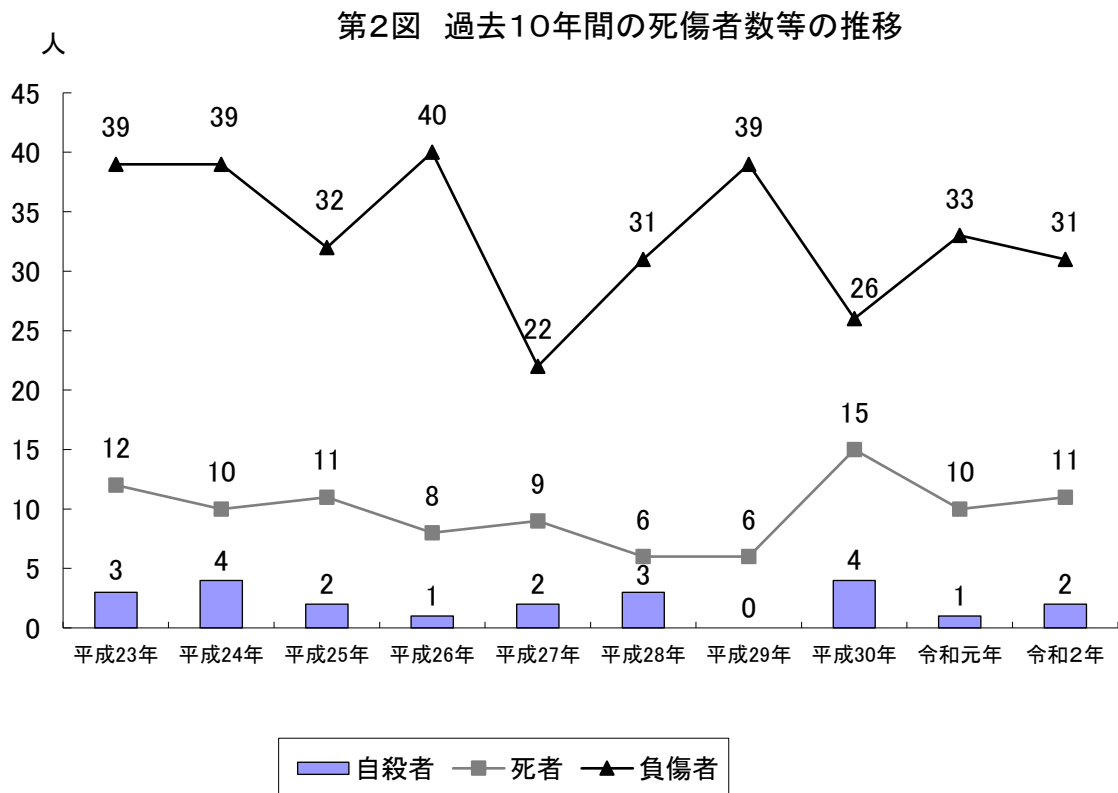
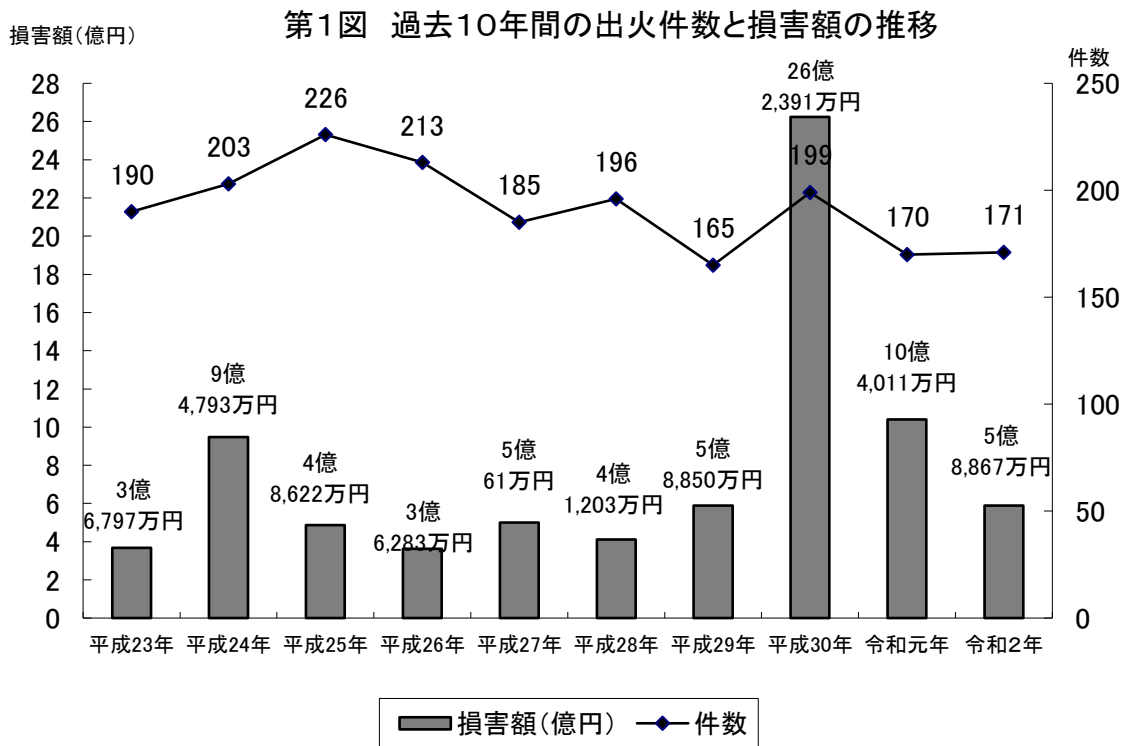
区 分	単位	令和2年 (A)	令和元年 (B)	対前年増加数 (A) - (B)
出 火 件 数	件	0.47	0.47	0.00
損 害 額	万円	161	285	△124
焼 損 棟 数	棟	0.42	0.42	0.00
り 災 世 帯 数	世帯	0.19	0.24	△0.05
り 災 人 員	人	0.49	0.54	△0.05

第2表 令和2年火災発生状況と前年比較表

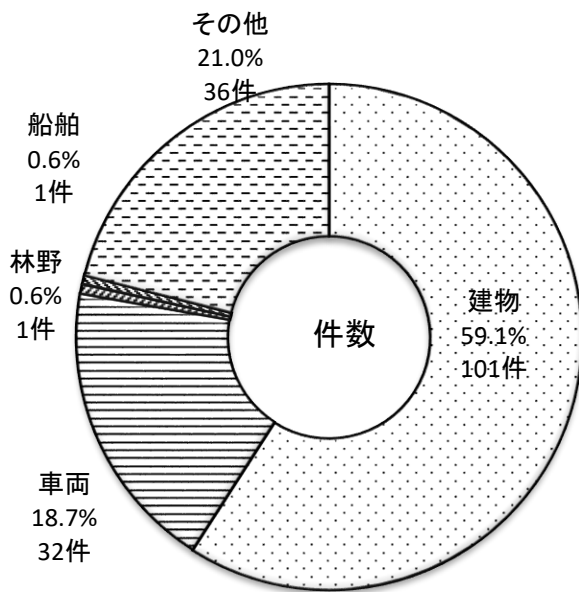
区 分	令和2年(A)	令和元年(B)	対前年増加数 (A) - (B) = (C)
総 出 火 件 数	171	170	1
建 物	101	103	△ 2
林 野	1	4	△ 3
車 両	32	34	△ 2
船 舶	1	0	1
そ の 他	36	29	7
焼 損 棟 数 ( 棟 )	152	155	△ 3
全 焼	36	36	0
半 焼	9	9	0
部 分 焼	47	42	5
ぼ や	60	68	△ 8
り 災 世 帯 数 ( 世 帯 )	70	86	△ 16
全 損	19	20	△ 1
半 損	5	7	△ 2
小 損	46	59	△ 13
り 災 人 員 ( 人 )	180	197	△ 17
建 物 焼 損 面 積 ( m <sup>2</sup> )	8,998	11,009	△ 2,011
林 野 焼 損 面 積 ( a )	5	30	△ 25
損 害 額 合 計 ( 千 円 )	588,667	1,040,114	△ 451,447
建 物	543,277	1,008,998	△ 465,721
林 野	3	310	△ 307
車 両	36,434	22,567	13,867
船 舶	0	0	0
そ の 他	8,953	6,066	2,887
爆 発	0	2,173	△ 2,173
死 者 ( 人 )	11	10	1
( ) は 放 火 自 殺 者 内 数	(2)	(1)	1
建 物	9	9	0
林 野	0	0	0
車 両	1	1	0
船 舶	0	0	0
そ の 他	1	0	1
(1)	(1)		1
負 傷 者 ( 人 )	31	33	△ 2
建 物	19	25	△ 6
林 野	0	0	0
車 両	3	4	△ 1
船 舶	1	0	1
そ の 他	8	4	4
出 火 率 <small>(人口1万人に対する出火件数)</small>	2.20	2.17	

令和2年人口：令和2年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

令和元年人口：平成31年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

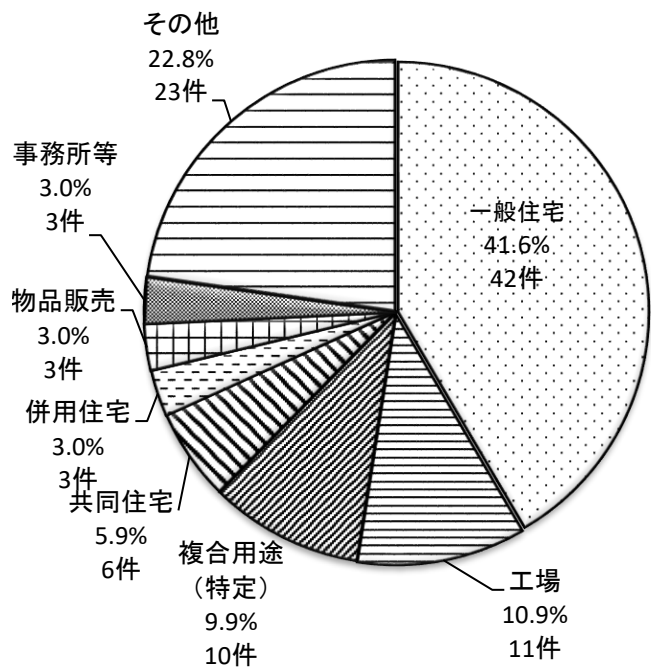


第3図 火災発生件数の内訳



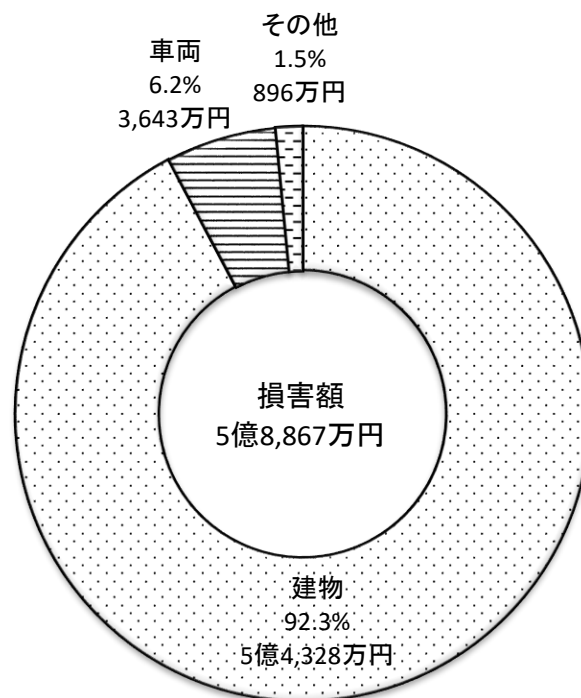
□建物 □車両 □林野 □船舶 □その他

第4図 うち建物火災件数の内訳



□一般住宅 □工場  
 □複合用途(特定) □共同住宅  
 □物品販売店舗等 □事務所等  
 □その他

第5図 損害額の内訳



□建物 □車両 □林野 □船舶 □その他 □爆発



第3表 令和2年月別火災発生状況表

月	出火件数(件)					焼損棟数(棟)				焼損面積		り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	死(人)	内は放火自殺者(人)	負傷者(人)	損害額(千円)									
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼ	建物(m <sup>2</sup> )	林野(a)	合計					全	半	小	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	爆発
1	14	9	0	4	0	1	12	3	1	3	5	792	0	3	0	1	2	4	1	(0)	2	44,978	23,358	0	13,999	0	7,621	0
2	14	11	0	1	0	2	13	2	1	6	4	535	0	6	3	0	3	13	1	(0)	3	22,231	21,365	0	589	0	277	0
3	18	12	0	2	0	4	29	10	3	10	6	1,813	0	16	6	2	8	35	2	(0)	3	56,628	55,601	0	584	0	443	0
4	13	8	0	1	0	4	18	5	0	6	7	737	0	12	4	0	8	38	0	(0)	5	62,800	62,789	0	11	0	0	0
5	12	7	0	5	0	0	10	1	0	5	4	142	0	6	0	0	6	21	0	(0)	2	2,447	2,290	0	157	0	0	0
6	25	9	0	2	0	14	9	2	0	2	5	273	0	1	0	0	1	3	1	(1)	6	16,022	15,530	0	195	0	297	0
7	5	4	0	0	0	1	4	0	0	1	3	95	0	1	0	0	1	2	0	(0)	0	1,911	1,911	0	0	0	0	0
8	17	9	0	6	0	2	12	3	2	0	7	371	0	3	1	1	1	9	0	(0)	1	33,179	31,915	0	1,017	0	247	0
9	15	10	0	2	1	2	17	6	0	5	6	3,184	0	3	1	0	2	8	0	(0)	2	278,238	276,601	0	1,636	0	1	0
10	13	6	0	5	0	2	10	2	0	4	4	587	0	5	2	0	3	13	2	(0)	0	37,246	19,291	0	17,955	0	0	0
11	12	7	1	1	0	3	7	0	1	2	4	162	5	5	0	0	5	11	0	(0)	2	13,274	13,193	3	11	0	67	0
12	13	9	0	3	0	1	11	2	1	3	5	307	0	9	2	1	6	23	4	(1)	5	19,713	19,433	0	280	0	0	0
計	171	101	1	32	1	36	152	36	9	47	60	8,998	5	70	19	5	46	180	11	(2)	31	588,667	543,277	3	36,434	0	8,953	0

第4表 市町別火災発生状況表

区分	出火件数(件)							焼損棟数(棟)					り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損		小損
福井市	46	38	1	5	0	0	2	52	12	3	17	20	26	8	2	16	72
敦賀市	14	8	0	5	0	0	1	12	2	0	4	6	6	1	0	5	9
小浜市	12	3	0	1	1	0	7	7	3	0	3	1	0	0	0	0	0
大野市	10	6	0	4	0	0	0	7	1	2	3	1	4	1	1	2	10
勝山市	9	5	0	0	0	0	4	8	1	1	1	5	6	1	1	4	18
鯖江市	14	10	0	1	0	0	3	25	7	1	7	10	10	6	0	4	36
あわら市	8	3	0	2	0	0	3	7	2	0	4	1	6	2	0	4	10
越前市	11	5	0	2	0	0	4	5	1	0	1	3	3	0	0	3	8
坂井市	16	5	0	5	0	0	6	5	0	0	2	3	2	0	0	2	4
市計	140	83	1	25	1	0	30	128	29	7	42	50	63	19	4	40	167
永平寺町	1	1	0	0	0	0	0	4	1	0	1	2	1	0	0	1	1
池田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	3	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
越前町	5	2	0	1	0	0	2	2	1	0	0	1	1	0	0	1	1
美浜町	8	5	0	0	0	0	3	6	2	1	1	2	1	0	0	1	1
高浜町	3	3	0	0	0	0	0	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0
おおい町	2	1	0	1	0	0	0	3	1	0	1	1	1	0	0	1	2
若狭町 (内訳)	9	6	0	3	0	0	0	6	1	1	1	3	3	0	1	2	8
旧三方町 敦賀美方消防管轄	4	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
旧上中町 若狭消防管轄	5	4	0	1	0	0	0	4	1	1	1	1	3	0	1	2	8
町計	31	18	0	7	0	0	6	24	7	2	5	10	7	0	1	6	13
県計	171	101	1	32	1	0	36	152	36	9	47	60	70	19	5	46	180

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載

期間:令和2年1月1日～令和2年12月31日

死傷者数(人)		焼 損 面 積			損 害 額(千円)						
死 者	負 傷 者	建 物 床 (m <sup>2</sup> )	建 物 表 (m <sup>2</sup> )	林 野 (a)	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発
5	10	5,051	155	5	381,322	377,546	3	3,555	0	218	0
2	3	415	5	0	38,078	20,982	0	9,854	0	7,242	0
0	7	64	89	0	1,785	600	0	1,185	0	0	0
1	1	524	2	0	13,169	10,905	0	1,975	0	289	0
0	1	198	17	0	19,395	19,366	0	0	0	29	0
2	2	1,451	196	0	68,666	67,776	0	889	0	1	0
0	0	222	9	0	6,304	5,917	0	256	0	131	0
1	1	13	1	0	1,069	406	0	200	0	463	0
0	4	0	23	0	15,212	551	0	14,188	0	473	0
11	29	7,938	497	5	545,000	504,049	3	32,102	0	8,846	0
0	0	56	0	0	305	305	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	60	0	0	35	0	25	0
0	0	505	1	0	15,579	12,634	0	2,945	0	0	0
0	0	26	6	0	2,048	2,040	0	8	0	0	0
0	0	16	4	0	625	625	0	0	0	0	0
0	1	139	5	0	2,066	756	0	1,310	0	0	0
0	1	318	0	0	22,984	22,868	0	34	0	82	0
0	0	1	0	0	22	8	0	14	0	0	0
0	1	317	0	0	22,962	22,860	0	20	0	82	0
0	2	1,060	16	0	43,667	39,228	0	4,332	0	107	0
11	31	8,998	513	5	588,667	543,277	3	36,434	0	8,953	0

第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率

区 分	総計		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)
福井市	46	381,322	4	157	3	14,483	8	35,166	1	7463	3	1,174	5	481
敦賀市	14	38,078	2	24,688	1	3	0	0	1	13	1	2	1	169
小浜市	12	1,785	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	0
大野市	10	13,169	2	3,867	1	17	0	0	0	0	3	349	0	0
勝山市	9	19,395	0	0	1	3	1	0	1	15747	1	1	1	0
鯖江市	14	68,666	1	132	2	6,793	1	11,680	2	37608	0	0	3	24
あわら市	8	6,304	1	128	1	0	1	4,553	0	0	0	0	2	21
越前市	11	1,069	0	0	2	229	1	68	1	52	0	0	1	20
坂井市	16	15,212	0	0	1	436	3	480	1	11	2	145	5	49
市 計	140	545,000	10	28,972	12	21,964	15	51,947	8	60,894	10	1,671	22	764
永平寺町	1	305	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	3	60	0	0	0	0	1	25	0	0	0	0	0	0
越前町	5	15,579	2	15,579	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
美浜町	8	2,048	0	0	1	79	0	0	4	1,906	0	0	1	0
高浜町	3	625	1	416	1	188	0	0	0	0	0	0	0	0
おおい町	2	2,066	0	0	0	0	0	0	0	0	1	756	0	0
若狭町 (内訳)	9	22,984	1	11	0	0	1	4,656	0	0	1	20	2	15,258
旧三方町 <small>敦賀美方消防管轄</small>	4	22	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
旧上中町 <small>若狭消防管轄</small>	5	22,962	0	0	0	0	1	4,656	0	0	1	20	1	15,250
町 計	31	43,667	4	16,006	2	267	3	4,681	5	1,906	2	776	3	15,258
県 計	171	588,667	14	44,978	14	22,231	18	56,628	13	62,800	12	2,447	25	16,022

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

出火率(人口1万人に対する出火件数)は、令和2年3月31日現在の住民基本台帳人口により算定

期間:令和2年1月1日～令和2年12月31日

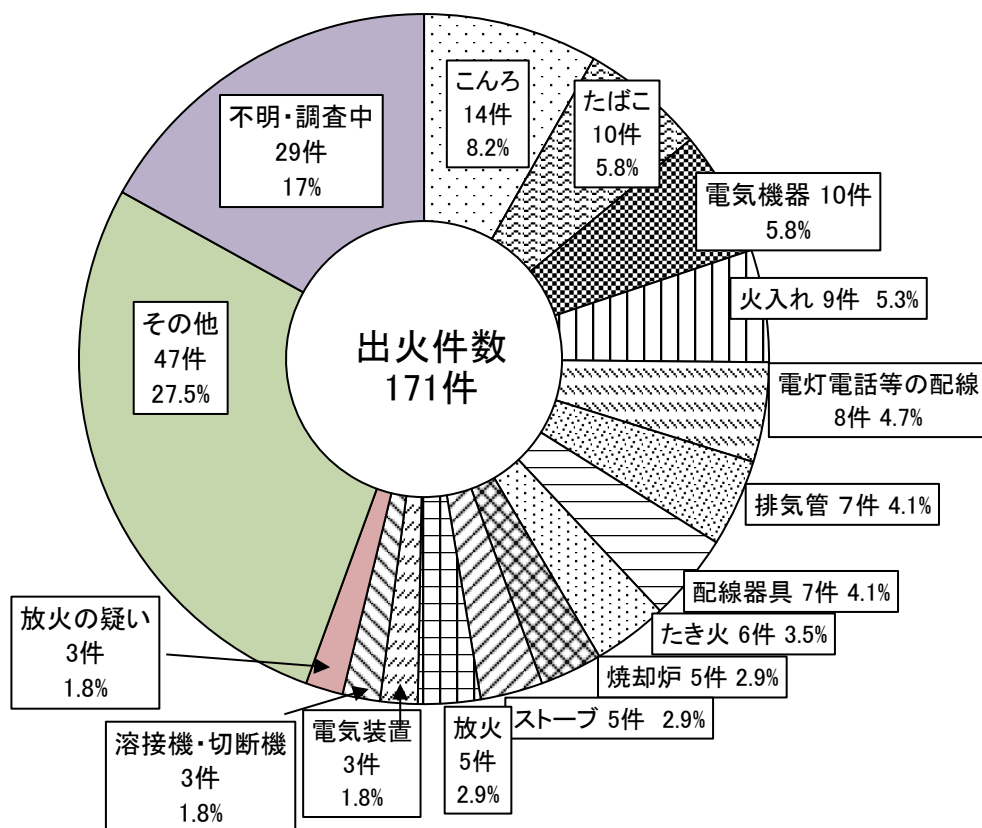
7月		8月		9月		10月		11月		12月		出火率 (人口 1万人に 対する 出火件数)
件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	
0	0	6	28,663	7	274,648	2	8,622	2	18	5	10,447	1.76
1	1	0	0	1	12	2	7,421	2	38	2	5,731	2.15
0	0	0	0	3	600	2	1,185	2	0	0	0	4.14
1	1,836	1	636	1	2,672	0	0	1	3,792	0	0	3.06
1	0	1	3,168	0	0	0	0	1	29	1	447	3.95
1	74	0	0	1	1	2	3,224	1	9,130	0	0	2.02
0	0	2	172	0	0	1	1,430	0	0	0	0	2.87
0	0	2	414	1	0	0	0	1	235	2	51	1.34
0	0	3	61	0	0	1	14,030	0	0	0	0	1.76
4	1,911	15	33,114	14	277,933	10	35,912	10	13,242	10	16,676	2.05
0	0	0	0	1	305	0	0	0	0	0	0	0.54
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
0	0	0	0	0	0	1	24	1	11	0	0	2.88
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2.36
0	0	1	62	0	0	0	0	0	0	1	1	8.58
0	0	0	0	0	0	0	0	1	21	0	0	2.92
0	0	0	0	0	0	1	1,310	0	0	0	0	2.45
1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	2	3,036	6.18
0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1	0	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3,036	
1	0	2	65	1	305	3	1,334	2	32	3	3,037	3.27
5	1,911	17	33,179	15	278,238	13	37,246	12	13,274	13	19,713	2.20

第6表 全火災の出火原因別損害状況表

期間:令和2年1月1日～令和2年12月31日

出火原因	出火件数(件)	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	焼損棟数(棟)	り災世帯数(世帯)	損害額(千円)
こ ん ろ	14	125	14	10	4,230
た ば こ	10	322	11	8	17,912
電 気 機 器	10	279	3	3	20,127
火 入 れ	9	25	4	0	2,096
電灯電話等の配線	8	1,282	15	6	67,802
排 気 管	7	9	2	0	1,385
配 線 器 具	7	79	4	1	17,778
た き 火	6	0	1	0	67
焼 却 炉	5	263	3	0	15,753
ス ト ー ブ	5	441	12	9	13,096
放 火	5	0	3	0	147
電 気 装 置	3	0	2	0	96
溶接機・切断機	3	0	2	0	405
放 火 の 疑 い	3	0	1	0	0
そ の 他	47	3,503	37	11	319,975
不 明 ・ 調 査 中	29	2,670	38	22	107,798
合 計	171	8,998	152	70	588,667

第6図 全火災の出火原因別状況



第7表 死者の死因別発生状況表

死因 火災種別	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折 等	自殺	その他	不明	合計(人)
建 物 火 災	5	4	0	0	0	0	9
林 野 火 災	0	0	0	0	0	0	0
車 両 火 災	0	0	0	1	0	0	1
そ の 他 火 災	0	0	0	1	0	0	1
合 計 ( 人 )	5	4	0	2	0	0	11

第8表 死者の経過別および年齢別発生状況表

経過別 年齢別(歳)	0 ～ 5	6 ～ 10	11 ～ 20	21 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 50	51 ～ 60	61 ～ 64	65 ～ 70	71 ～ 80	81～	不明	合計 (人)
熟睡等により発見遅れる				1		1			3				5
判断力・体力条件のため							1						1
人の救助のため逃げる機会を失う											1		1
身体不自由のため逃げきれず										1			1
放火自殺						1				1			2
不明・調査中										1			1
合計(人)	0	0	0	1	0	2	1	0	3	3	1	0	11

## 第3章 救急業務の実態

### 1 救急体制

災害により生じた事故もしくは屋外もしくは公衆の出入りする場所、または屋内において生じた事故で、迅速に搬送する手段がない場合に傷病者を医療機関等へ搬送する業務が救急業務であるが、令和3年4月1日現在、第1表のとおり、救急自動車56台(全て高規格救急自動車)、救急隊員538名(うち救急救命士244名)で救急業務にあたっている。

### 2 救急医療体制

救急隊が搬送する傷病者を受け入れる救急告示医療機関数は、令和3年4月1日現在、第2表のとおり51施設である。

### 3 救急活動状況

救急活動状況を表したのが第3表であり、救急出場件数は26,253件、搬送人員は24,822人となっている。県内1日あたりの出場件数は72件となり、約20分に1回の割合で救急隊が出場したことになる。

過去10年間の出場件数および搬送人員の推移を表したのが第1図であり、出場件数、搬送人員ともに平成30年まで増加傾向にあったが、令和元年は災害や猛暑日が少なく平成30年との比較で3%減少した。さらに、令和2年には新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛等の影響で救急需要が大幅に減少したことから、令和元年との比較で13%減少し、出場件数と搬送人員が過去10年で最少となった。

出場件数、搬送人員の事故種別内訳を表したのが第2図、第3図であり、出場件数の事故種別内訳では、急病が16,352件で、全体の62.3%を占め、次いで一般負傷4,356件(16.6%)、交通事故1,851件(7.1%)などとなっている。搬送人員では急病が15,356人で全体の61.9%を占め、次いで一般負傷4,154人(16.7%)、交通事故1,998人(8.0%)などとなっている。



第1表 救急体制状況表

令和3年4月1日現在

消防本部名	救急自動車			救急隊員					
	高規格救急車	通常型	合計	専任		兼任		合計	
				救急救命士		救急救命士		救急救命士	
福井市	11	0	11	54	37	27	19	81	56
大野市	4	0	4			47	17	47	17
勝山市	3	0	3			28	10	28	10
永平寺町	3	0	3			36	12	36	12
嶺北消防組合	8	0	8			92	34	92	34
鯖江・丹生消防組合	6	0	6			95	36	95	36
南越消防組合	8	0	8			73	27	73	27
敦賀美方消防組合	6	0	6	13	9	23	19	36	28
若狭消防組合	7	0	7	7	5	43	19	50	24
合計	56	0	56	74	51	464	193	538	244

第2表 医療機関状況表

令和3年4月1日現在

種別 告示別	国・公立	公的	私的		合計
			病院	診療所	
救急告示医療機関	7	5	28	11	51
その他の医療機関	14	7	24	472	517
合計	21	12	52	483	568

第3表 救急活動状況表

(令和2年中)

	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損為	急病	その他
救急出場件数	26,253	78	3	52	1,851	298	100	4,356	54	227	16,352	2,882
搬送人員	24,822	30	2	26	1,998	296	101	4,154	48	131	15,356	2,680

第4表 高速自動車道における救急活動状況表

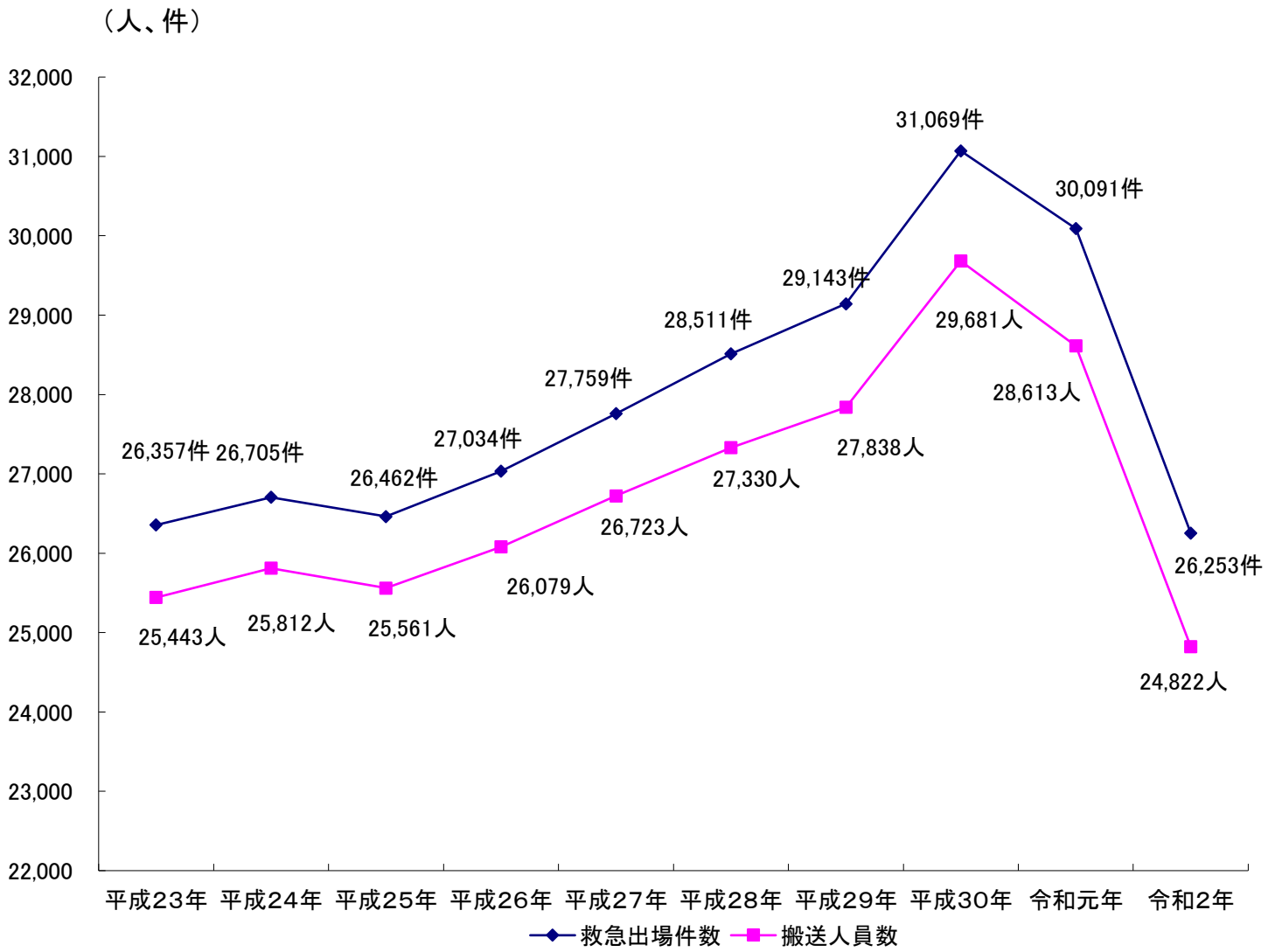
(令和2年中)

高速道路名	北陸自動車道										小計	
担当消防本部名	嶺北消防組合消防本部		福井市消防局		鯖江・丹生消防組合消防本部		南越消防組合消防本部		敦賀美方消防組合消防本部			
I C 名	金津	丸岡	福井北	福井	鯖江	武生	今庄	敦賀				
救急出動数	5	3	0	1	11	5	19	27				71
搬送人員	7	3	0	1	14	5	26	28				84

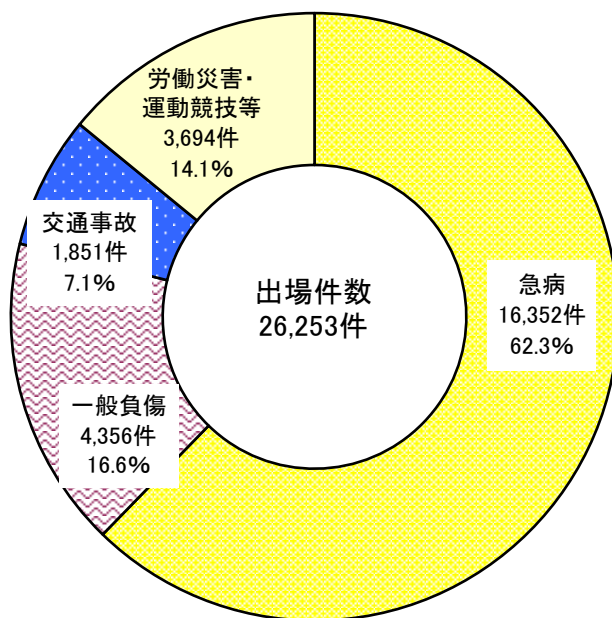
  

高速道路名	舞鶴若狭自動車道										小計	計
担当消防本部名	敦賀美方消防組合消防本部					若狭消防組合消防本部						
I C 名	舞鶴美浜	若狭三方	敦賀南	三方五湖	大飯高浜	小浜西	小浜	若狭上中	三方五湖			
救急出動数	2	0	0	3	3	0	1	1	0	10		81
搬送人員	3	0	0	2	4	0	0	0	0	9		93

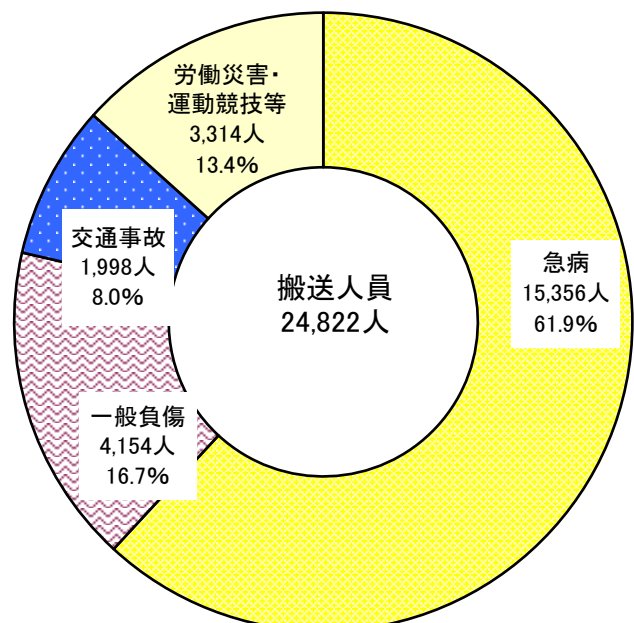
第1図 過去10年間の救急活動の推移



第2図 出場件数の事故種別内訳



第3図 搬送人員の事故種別内訳



## 第4章 予 防 行 政 の 概 況

### 1 防火対象物定期点検報告制度

不特定多数の人が出入りするなど一定の防火対象物について、所有者や賃借人等のうち管理について権原を有する人が、火災予防のために資格者による定期点検を行い、その結果を消防機関へ報告する制度である。

この制度による令和2年4月1日から令和3年3月31日までの状況は第1表のとおりである。

第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表

防火対象物の区分		点検を要する防火対象物数		点検報告済防火対象物数		特例認定済防火対象物数		
		第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	
1	イ	劇場、映画館、演芸場または観覧場	32		12		8	
	ロ	公会堂または集会場	217		100		58	
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの						
	ロ	遊技場またはダンスホール	56		27		10	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	3		2			
3	イ	待合、料理店その他これらに類するもの	3	8	2	4		
	ロ	飲食店	7	41	4	10		
4		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗または展示場	192	19	128	3	8	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	40	77	19	17	9	35
6	イ	病院、診療所または助産所	36	7	18	1	11	5
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム、精神障害者社会復帰施設等	7	5	1	2	3	
	ハ	老人デイサービスセンター、老人福祉センター、精神障害者社会復帰施設（軽微）等	2	3	1	3	1	
	ニ	幼稚園または特別支援学校	1		1			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類する公衆浴場	4		1		1	
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が上記に該当する用途に供されているもの	204	37	106	9	32	2
16の2		地下街						
合計			804	197	422	49	141	43

#### 【備考】

- ・点検報告済防火対象物とは、1年に1回、防火対象物点検資格者による点検報告が必要なもので、点検の結果、点検基準に適合していると認められた防火対象物。「防火基準点検済証」を表示することができる。
- ・特例認定済防火対象物とは、一定の要件を満たしているもので、申請によって点検報告の義務が3年間免除される防火対象物「防火優良認定証」を表示することができる。
- ・第1号該当とは、収容人員が300人以上の防火対象物
- ・第2号該当とは、収容人員が30人以上300人未満の防火対象物で次の要件に該当する防火対象物
  - 特定用途部分が地階または3階以上に存するもの（避難階は除く）
  - 階段が2以上設けられていないもの
- ・調査基準日…令和3年3月31日
- ・調査期間……令和2年4月1日～令和3年3月31日

## 2 消防設備士試験および講習の状況

消防設備士は、甲種・乙種合わせて642人の受験者に対して302人が合格し、合格率は47.0%であった。その状況は第2表のとおりである。

また、免状所有者に対する義務講習は630人が受講した。その状況は第3表のとおりである。

### 第2表 消防設備士試験実施状況表

試験日：令和2年8月30日（日）

令和3年1月17日（日）

区 分	令和2年度								免状交付延べ数	
	受験者数（人）		合格人数（人）		合格率（%）		免状交付数			
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種
特 類	3		0		0.0%		0		19	
第 1 類	57	16	29	7	50.9%	43.8%	31	7	1,296	347
第 2 類	14	4	7	0	50.0%	0.0%	8	0	374	111
第 3 類	25	10	14	2	56.0%	20.0%	16	2	308	70
第 4 類	130	88	55	49	42.3%	55.7%	53	48	2,916	1,203
第 5 類	31	8	14	3	45.2%	37.5%	15	3	330	130
第 6 類		167		73		43.7%		66		2,335
第 7 類		89		49		55.1%		82		3,398
計	260	382	119	183	45.8%	47.9%	123	208	5,243	7,594

### 第3表 消防設備士法定講習実施状況表

区 分	受 講 対 象 者 区 分	受講者数（人）	実 施 年 月 日
消 火 設 備	(甲・乙)第1類, 第2類, 第3類 消防設備士	138	令和2年12月15日（火） 令和3年 1月18日（月）
避難設備・消火器	(甲・乙)第5類, (乙)第6類 消防設備士	161	令和2年12月16日（水） 令和3年 1月19日（火）
警 報 設 備	(甲・乙)第4類, (乙)第7類 消防設備士	331	令和2年12月17日（木） 令和2年12月18日（金） 令和3年 1月20日（水） 令和3年 1月21日（木）
合 計		630	

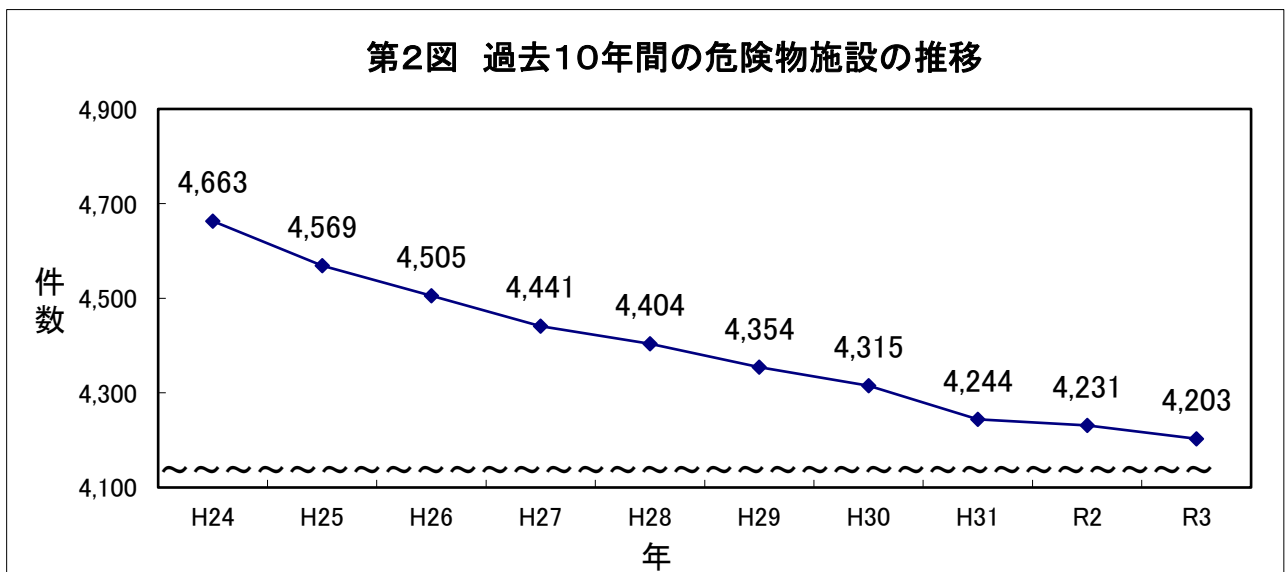
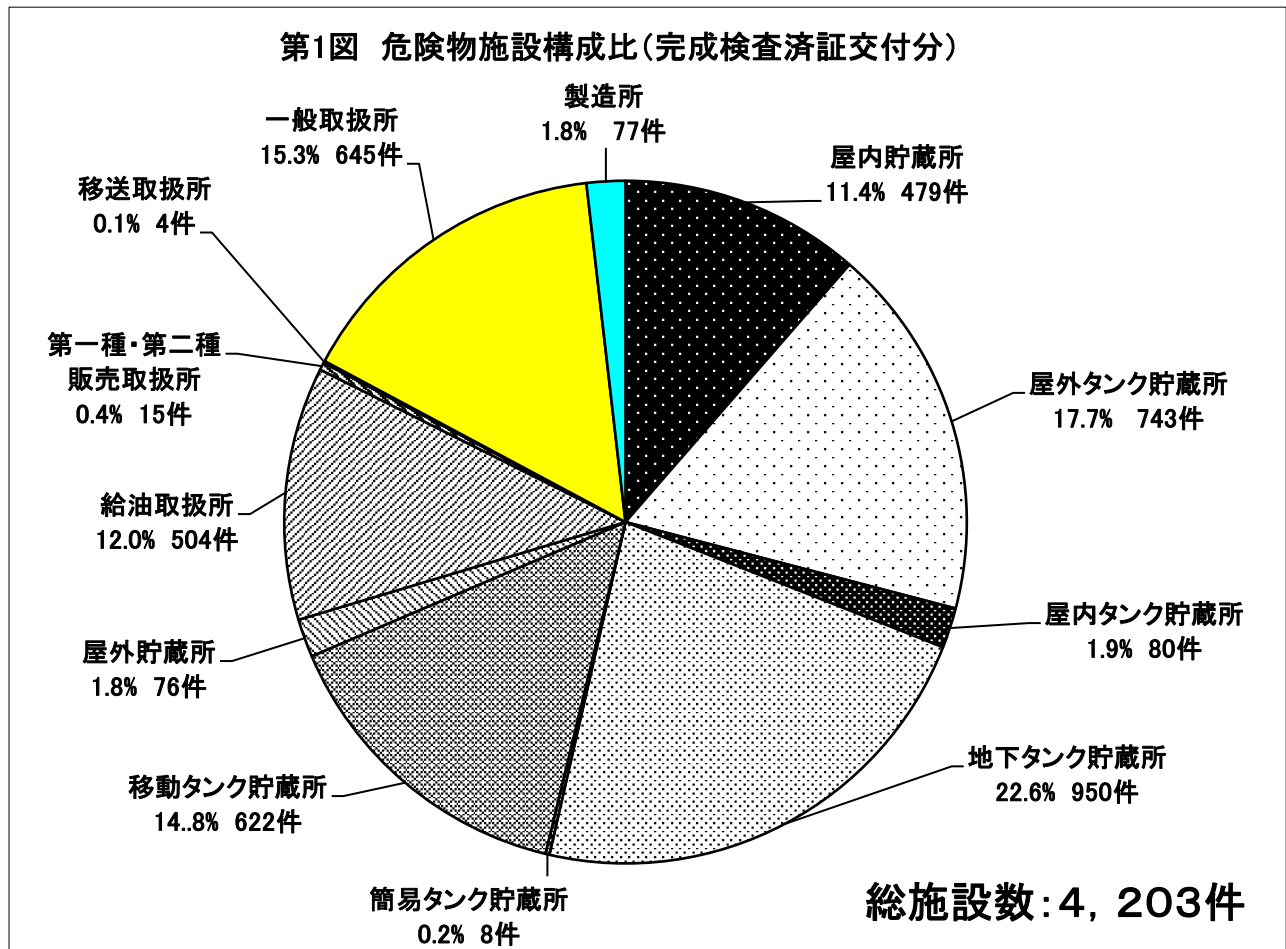
## 第5章 危険物規制

### 1 概況

(1) 危険物規制は、福井市、大野市、勝山市および永平寺町においては当該市町が、またその他の市町においてはそれぞれの加入する消防組合が行なっている。

なお、県内の総施設数は第1図のとおりである。(令和3年3月31日現在)

(2) 危険物の総施設数の推移は第2図のとおり減少傾向であり、前年に対し28件減少している。



第1表 施設別危険物施設数

令和3年3月31日現在

危険物施設の別 消防本部名	製造所 (A)	貯蔵所										取扱所					合計 (A+B+C)	事業所	
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	準特定屋外タンク貯蔵所		屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計 (C)
				特定屋外タンク貯蔵所	準特定屋外タンク貯蔵所														
福井市	21	109	189	5	20	26	252	1	172	18	767	128	8	0	1	140	277	1,065	504
大野市	0	8	16	0	0	0	49	0	33	0	106	23	0	0	0	28	51	157	92
勝山市	3	9	26	0	0	1	43	0	17	2	98	16	0	0	0	20	36	137	77
永平寺町	0	5	5	0	0	2	20	0	16	0	48	6	0	0	0	11	17	65	36
嶺北消防組合	33	104	183	3	34	11	167	1	110	22	598	87	0	0	2	163	252	883	312
鯖江・丹生消防組合	5	63	58	0	0	6	112	0	45	9	293	42	2	4	0	50	98	396	274
南越消防組合	12	72	113	0	0	11	111	2	84	14	407	64	0	0	0	77	141	560	242
敦賀美方消防組合	1	60	101	7	8	14	121	0	90	8	394	89	0	0	1	95	185	580	223
若狭消防組合	2	49	52	0	0	9	75	4	55	3	247	49	1	0	0	61	111	360	153
合計	77	479	743	15	62	80	950	8	622	76	2,958	504	11	4	4	645	1,168	4,203	1,913

- 注：1 貯蔵所および取扱所の区分は危険物の規制に関する政令の区分による（以下の表においても同様）。
- 2 本表には、設置を許可した施設のうち、完成検査済証を交付した施設数から廃止届を受理した施設数を除いた数を記載（以下の表においても同様）
- 3 準特定屋外タンク貯蔵所には、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が五百キログラム以上千キログラム未満のものを記載（以下の表においても同様）
- 4 特定屋外タンク貯蔵所数は、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が千キログラム以上のものを記載（以下の表においても同様）
- 5 事業所数は、危険物施設を有する事業所の数を記載

第2表 指定数量別および類別危険物施設数

令和3年3月31日現在

危険物施設の別 数量別・類別	製造所 (A)	貯蔵所										取扱所					合計 (A+B+C)		
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	準特定屋外タンク貯蔵所	特定屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所		小計 (C)	
5倍以下	3	219	127			55	502	8	469	19	1,399	37	5			275	317	1,719	
5倍を超えて10倍以下	9	100	103			20	221		14	26	484	54	4			158	216	709	
10 " 50 "	35	86	252			5	159		27	28	557	132	2	4		125	263	855	
50 " 100 "	15	21	88				37		87	2	235	70				38	108	358	
100 " 150 "	3	27	46				15		24		112	51				17	68	183	
150 " 200 "		9	9	1			7			1	26	58				8	66	92	
200 " 1,000 "	12	14	54	9	3		9		1		78	101				17	118	208	
1,000 " 5,000 "		3	23	5	18						26	1				3	4	30	
5,000 " 10,000 "			3		3						3					2	2	5	
10,000倍を超えるもの			38		38						38				4	2	6	44	
合計	77	479	743	15	62	80	950	8	622	76	2,958	504	11	4	4	645	1,168	4,203	
単独	第1類	1	9								9							10	
	第2類	1	4								4					3	3	8	
	第3類		3								3					5	5	8	
	第4類	53	418	739	15	62	80	950	8	622	75	2,892	504	11	4	4	614	1,137	4,082
	第5類		17	2							19								19
	第6類			2							2								2
混在	22	28								1	29					23	23	74	
合計	77	479	743	15	62	80	950	8	622	76	2,958	504	11	4	4	645	1,168	4,203	

注：1 数量別の欄は、危険物施設で貯蔵または取り扱う危険物の最大数量（許可数量）を指定数量の倍数によって表したものである。  
 2 類別の欄の単独には、類を同じくする危険物のみを貯蔵または取り扱っている危険物施設の数、混在には、類を異にする危険物を貯蔵または取り扱っている危険物施設の数に記載

第3表 危険物施設に対する立入検査状況

令和2年4月1日から  
令和3年3月31日まで

危険物施設の別 消防本部名		製 造 所 (A)	貯 蔵 所							取 扱 所					合 計 (A+B+C)		
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所		一 般 取 扱 所	小 計 (C)
福 井 市	検査施設数	20	42	145	5	83		162	15	452	97	1		1	55	154	626
	延回数	30	43	151	5	89		165	15	468	98	1		1	60	160	658
大 野 市	検査施設数							31		31	13					13	44
	延回数							31		31	13					13	44
勝 山 市	検査施設数	2	4	7	1	25		16	2	55	12				7	19	76
	延回数	2	4	7	1	25		17	2	56	12				7	19	77
永 平 寺 町	検査施設数		4	5	2	20		16		47	6				11	17	64
	延回数		4	5	2	20		16		47	6				11	17	64
嶺北消防組合	検査施設数	11	24	75	3	39	1	37	5	184	61			2	42	105	300
	延回数	11	24	80	3	51	1	53	5	217	62			2	51	115	343
鯖江・丹生消防組合	検査施設数	1	4	10	1	1		50	1	67	21				5	26	94
	延回数	1	4	10	1	1		50	1	67	21				5	26	94
南越消防組合	検査施設数		28	25	1	23		68	6	151	8				5	13	164
	延回数		28	25	1	23		72	6	155	10				5	15	170
敦賀美方消防組合	検査施設数		17	22		21		75	9	144	15			1	36	52	196
	延回数		17	22		21		75	9	144	15			1	36	52	196
若狭消防組合	検査施設数		32	14	8	36	3	36	1	130	28	1			28	57	187
	延回数		32	14	8	37	3	36	1	131	28	1			28	57	188
合 計	検査施設数	34	155	303	21	248	4	491	39	1,261	261	2		4	189	456	1,751
	延回数	44	156	314	21	267	4	515	39	1,316	265	2		4	203	474	1,834

注：1 検査施設数の欄は、立入検査を行った施設数を危険物施設の区分ごとに記載  
2 延回数の欄は、立入検査を行った延回数を危険物施設の区分ごとに記載



第4表の1 容量別屋外タンク貯蔵所数

令和3年3月31日現在

消防本部名 容量別	福	大	勝	永	嶺	鯖	南	敦	若	合
	井	野	山	平	北	江・	越	賀	狭	計
	市	市	市	町	消	・丹	消	美	消	
					防	生	防	方	防	
					組	消	組	消	組	
					合	防	合	防	合	
						組		組		
						合				
100kl未満	147	16	26	5	129	41	103	61	46	574
100kl～500kl未満	17	0	0	0	17	17	10	25	6	92
500kl～1,000kl未満	5	0	0	0	3	0	0	7	0	15
1,000kl～5,000kl未満	0	0	0	0	19	0	0	8	0	27
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
100,000kl以上	20	0	0	0	10	0	0	0	0	30
合計	189	16	26	5	183	58	113	101	52	743

第4表の2 品名別屋外タンク貯蔵所数

令和3年3月31日現在

品名別 容量別	第4類											第4類以外の類(B)	合計(A+B)
	原	ナ	ガ	灯	軽	重	第	ア	そ	小	計		
	油	フ	ソ	油	油	油	4	ル	の	計	(A)		
		サ	リ				石	コ	他	(			
			ン				油	ール	)				
							類	ル					
								類					
100kl未満	0	0	0	72	35	166	18	54	225	570	4	574	
100kl～500kl未満	0	0	0	3	16	41	7	0	25	92	0	92	
500kl～1,000kl未満	3	0	1	0	1	7	0	0	3	15	0	15	
1,000kl～5,000kl未満	0	0	6	3	4	7	0	0	7	27	0	27	
5,000kl～10,000kl未満	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	
10,000kl～50,000kl未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50,000kl～100,000kl未満	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	3	
100,000kl以上	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	
合計	33	0	7	80	56	224	25	54	260	739	4	743	

第5表 危険物取扱者試験実施状況

区 分 種 別		平成29年度 合 格 率 ( % )	平成30年度 合 格 率 ( % )	令和元年度 合 格 率 ( % )	令和2年度		
					受 験 者 数 ( 人 )	合 格 者 数 ( 人 )	合 格 率 ( % )
甲 種		30.9	37.9	39.6	174	63	36.2
乙 種	第 1 類	60.4	63.0	68.3	182	115	63.2
	第 2 類	74.1	71.8	66.7	172	119	69.2
	第 3 類	63.8	59.6	70.2	172	121	70.3
	第 4 類	34.3	37.8	38.8	2,123	792	37.3
	第 5 類	66.4	65.0	71.9	134	94	70.1
	第 6 類	58.5	63.2	58.8	191	113	59.2
	小 計	43.8	45.4	46.5	2,974	1,354	45.5
丙 種		58.7	51.2	49.0	477	273	57.2
合 計		45.3	46.0	46.5	3,625	1,690	46.6

第6表 危険物取扱者保安講習実施状況

区 分 講習種別		平成29年度 受 講 者 数 ( 人 )	平成30年度 受 講 者 数 ( 人 )	令和元年度 受 講 者 数 ( 人 )	令和2年度	
					受 講 者 数 ( 人 )	講 習 実 施 回 数 ( 回 )
給 油 取 扱 所		410	425	461	399	8
石 油 コ ン ビ ナ ー ト		56	44	51	45	2
そ の 他		1,456	1,647	1,584	1,580	27
合 計		1,922	2,116	2,096	2,024	37

- 注：1 「給油取扱所」は、給油取扱所において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 2 「石油コンビナート」は、石油コンビナート等災害防止法上の特定事業所における危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 3 「その他」は、「給油取扱所」および「石油コンビナート」以外の危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。

## 2 危険物施設の火災および漏えい事故等

- (1) 過去5年間における危険物の災害事故発生件数は、平成28年が9件と最も多い。  
 (2) 過去5年間の危険物施設別の災害事故発生件数は、移動タンク貯蔵所での事故が11件と最も多い。

第7表 過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数

年	危険物施設の別の別	製造所 (A)	貯蔵所							取扱所						その他 (D)	合計 (A+B+C+D)	
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計 (C)
平成28年	火災								0						4	4		4
	漏えい							1	1						1	1		2
	その他							2	2						1	1		3
平成29年	火災	1							0							0		1
	漏えい				1				1							0		1
	その他								0					1	1			1
平成30年	火災								0					1	1			1
	漏えい							2	2	1					1	1		3
	その他	1							0	1					1	1		2
令和元年	火災	3							0							0		3
	漏えい							3	3							0		3
	その他							2	2							0		2
令和2年	火災								0					1	1			1
	漏えい							1	1					1	1			2
	その他								0						0	0		0
火災計		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	10
漏えい計		0	0	0	0	1	0	7	0	8	1	0	0	0	2	3	0	11
その他計		1	0	0	0	0	0	4	0	4	1	0	0	0	2	3	0	8
総計		5	0	0	0	1	0	11	0	12	2	0	0	0	10	12	0	29

注： 危険物施設の別の「その他」には、危険物運搬中の事故または無許可の危険物施設など、許可を受けている危険物施設以外での事故件数を記載

## 第6章 消防の概要

### 1 消防の組織〈消防機関と人員〉

昭和23年消防組織法施行後、市町村消防の原則が確立され、昭和48年7月1日大野地区消防組合が発足したことにより、県下全域にわたり消防の常備化が実現した。消防吏員は令和3年4月1日現在で1,245名である。

また、消防団員数は令和3年4月1日現在で5,874名であるが、近年の社会経済情勢の変化の影響を受けて、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等の課題に直面しており、消防団の充実強化を一層推進することが必要である。

### 2 消防施設

#### (1) 消防機械

消防機械の保有状況は第8表および第9表のとおりであるが、特に近年の救急需要の増加に伴い、各消防本部とも高規格救急自動車の導入を推進している。これにより、高度な救急処置を実施することができ、救命率の向上を図っている。

#### (2) 消防水利

消防水利は、消防機械とともに、火災鎮火のために重要不可欠なものである。

これについては、消防に必要な水利の確保と管理のため「消防水利の基準」が定められ、その基準に適合したものを消防水利としている。消防水利には、消火栓、防火水槽、プール等の人工水利と河川等の自然水利があり、その保有状況は第11表のとおりである。

### 3 民間防火組織

#### (1) 幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期における防火教育の重要性、防火活動を通じての正しい社会的態度の養成の必要性などの観点からはじめられたもので、幼稚園、保育園の指導者を中心に消防機関の協力を得て幼年消防活動を行うことにより、父母兄弟や近隣住民に対する防火思想の普及も効果的に図られている。

#### (2) 少年消防クラブ

少年消防クラブは、少年のころから火災予防に関する知識を身に付け、学校や各家庭における火災防止を図るとともに、火に関する諸原理を実際に即して勉強し、学校教育としての社会科、理科および家庭科の学習の補助を目的とするものであって、昭和25年に少年消防クラブ取扱要綱が制定され、続いて昭和28年に「全国少年消防クラブ運営指導協議会」（会長：消防庁長官）が設けられ、今日に至っている。

#### (3) 女性防火クラブ

女性防火クラブは、家庭において火を使用する機会の多い女性を対象に、火災予防の知識を養うことが必要であることから、任意に結成されたものであり、消防職団員の指導のもとに各家庭の防火診断、火災の初期活動等、重要な役割を果たしている。

## 4 表 彰

消防職員および消防団員の士気高揚を図るとともに、地域住民の消防に対する正しい認識と円滑な協力援助関係を確立するため、消防に関して功労のあった消防職団員、消防機関その他の団体または個人に対し、各種表彰を行っている。

また、昭和58年より新たに県知事の定例表彰の中で、30年以上勤続の消防団員の配偶者等も表彰することにした。

## 5 消防の現況

第1表 消防職団員数の推移(各年4月1日現在)

区分	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
消防職員数	150	163	203	201	231	227	262	257	268	293	328	351	354	372	381	421	461	521	594
消防団員数	11,835	10,701	8,487	8,275	8,091	7,342	7,174	7,147	7,118	6,744	6,759	6,731	6,751	6,754	6,491	6,388	6,303	6,191	6,019

47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4
693	743	785	785	832	851	872	895	922	937	950	974	974	982	982	983	999	1,009	1,010	1,032	1,052
5,814	5,703	5,647	5,635	5,633	5,623	5,629	5,616	5,549	5,623	5,616	5,608	5,588	5,549	5,545	5,485	5,471	5,453	5,437	5,488	5,492

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1,090	1,101	1,119	1,141	1,162	1,169	1,183	1,186	1,190	1,188	1,190	1,193	1,192	1,190	1,189	1,184	1,183	1,180	1,192	1,196	1,189
5,497	5,519	5,502	5,533	5,523	5,518	5,497	5,499	5,483	5,460	5,436	5,439	5,442	5,406	5,411	5,411	5,480	5,560	5,656	5,688	5,661

26	27	28	29	30	令和元	2	3
1,188	1,206	1,206	1,226	1,238	1,235	1,246	1,245
5,720	5,797	5,781	5,809	5,825	5,824	5,814	5,874

第2表 消防機関の現況

区 分		令和2年4月(A)	令和3年4月(B)	増減(B-A)
消 防 本 部 ・ 署	消 防 本 部 数	9	9	0
	消 防 署 数	19	19	0
	出 張 所 数	28	27	△ 1
	消 防 職 員 数	1,246	1,245	△ 1
消 防 団	消 防 団 数	18	18	0
	分 団 数	238	238	0
	消 防 団 員 数	5,814	5,874	60

第3表 消防の概況

令和3年4月1日現在

区分 消防本部名	消防本部・署所					消防団						消防水利		基地局および固定局 移動局					
	設置別	消防署数	出張所数	消防実員数	普通自動車ポンプ数	水槽付消防ポンプ自動車数	消防団数	分団数	消防団常備部数	団員数		普通自動車ポンプ数	付小型積載車		消火栓（公設）	防火水槽			
										計	常勤						非常勤		
福井市	○	4	14	368	18	3	1	54		999		1	52	41	9,578	823	30	15	172
大野市	○	1	1	55	4		1	10		441		10	21		481	307	26	3	37
勝山市	○	1		38	2	1	1	12		292		2	11		433	201	13	16	42
永平寺町	○	1		39		3	1	11		350		10	10		179	253	11	3	27
嶺北消防組合	○	4	1	198	6	4	2	33		708		35	7		1,526	1,244	115	4	131
鯖江・丹生消防組合	○	1	4	123	5	1	2	36		577		34	3	3	1,658	900	38	5	254
南越消防組合	○	3	2	150	7	4	3	33		805		11	26		2,513	688	33	7	155
敦賀美方消防組合	○	3	1	150	3	4	3	16		738		23	31	6	1,316	226	163	8	137
若狭消防組合	○	1	4	124	7	3	4	33		964		9	40	48	1,081	514	58	6	136
計	1	8	27	1,245	52	23	18	238	0	5,874	0	135	201	98	18,765	5,156	487	67	1,091

第4表 階級別消防職員数

令和3年4月1日現在

区分	消防職員											その他の職員				条例定数
	計 (A) = (B) + (C)	うち女性	消防司監	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	小計 (B)	事務職員	技術職員	単 純 労 務 職 員	
消防本部名																
福井市	377	7	1	6	25	81	61	80	47	67	368	9	( )	( )	( )	9
大野市	56	3	( )	( )	1	8	19	9	8	10	55	1	( )	( )	( )	1
勝山市	39	1	( )	( )	4	4	15	2	8	5	38	1	( )	( )	( )	1
永平寺町	39	1	( )	( )	1	6	13	3	8	8	39	( )	( )	( )	( )	0
嶺北消防組合	201	10	1	1	8	42	36	48	30	32	198	3	( )	( )	( )	3
鯖江・丹生消防組合	124	6	( )	( )	8	33	22	19	17	23	123	1	( )	( )	( )	1
南越消防組合	156	5	( )	( )	10	37	31	26	18	27	150	6	( )	( )	( )	6
敦賀美方消防組合	151	2	( )	( )	12	24	27	27	30	29	150	1	( )	( )	( )	1
若狭消防組合	125	1	( )	( )	7	28	21	14	29	24	124	1	( )	( )	( )	1
計	1,268	36	2	11	76	263	245	228	195	225	1,245	23	0	0	0	23
			( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )

注1: 下段の( )は、女性職員の内数

注2: 条例定数に含まれない派遣・出向職員および短時間勤務の再任用職員がいるため、条例定数を超えている場合がある。

第5表 階級別非常勤消防団員数

令和3年4月1日現在

階級別 消防本部名	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	条約定数
福井市	999 (49)	1 ( )	8 ( )	54 (2)	54 (2)	102 (4)	103 (5)	677 (36)	1,055
大野市	441 (97)	1 ( )	2 ( )	10 (1)	11 (2)	35 (3)	70 (6)	312 (85)	485
勝山市	292 (24)	1 ( )	2 ( )	12 ( )	12 ( )	25 (1)	34 (2)	206 (21)	299
永平寺町	350 (25)	1 ( )	2 ( )	11 (1)	11 (1)	—	34 (1)	291 (22)	412
嶺北消防組合	708 (21)	2 ( )	7 ( )	33 ( )	52 ( )	2 (2)	63 (2)	549 (17)	773
鯖江・丹生消防組合	577 (21)	2 ( )	5 ( )	34 ( )	34 ( )	—	81 (1)	421 (20)	647
南越消防組合	805 (51)	3 ( )	9 ( )	32 (3)	32 (3)	—	83 (5)	646 (40)	826
敦賀美方消防組合	738 (40)	3 ( )	4 ( )	16 ( )	16 ( )	52 (1)	86 (3)	561 (36)	761
若狭消防組合	964 (30)	4 ( )	6 ( )	33 ( )	23 ( )	54 (1)	94 (1)	750 (28)	970
計	5,874 (358)	18 (0)	45 (0)	235 (7)	245 (8)	270 (12)	648 (26)	4,413 (305)	6,228

注：下段の( )は、女性団員の内数



第6表 年齢別消防吏員および消防団員数

令和3年4月1日現在

年齢別 消防本部名	消 防 吏 員										消 防 団 員															
	(A)のうち										平均年齢 (B) (A)	年齢合計 (B)	(C)のうち										平均年齢 (D) (C)			
	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳	60歳 〜 64歳			65歳 以上	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳		60歳 〜 64歳	65歳 以上	
吏員数 (A)	平均年齢 (B) (A)										年齢合計 (B)	団員数 (C)	平均年齢 (D) (C)										年齢合計 (D)			
福井市	368	9	47	47	39	33	26	64	36	67	14,817	40.3	999	1	10	30	56	112	152	189	165	142	119	23	47,848	47.9
大野市	55	1	4	8	9	5	11	3	9	2,185	39.7	441	0	4	11	33	55	71	77	79	59	43	9	20,811	47.2	
勝山市	38	0	3	1	7	2	10	4	6	1,613	42.4	292	0	4	5	17	50	40	60	36	43	32	5	13,741	47.1	
永平寺町	39	1	6	3	6	3	8	4	2	1,471	37.7	350	1	14	14	18	34	59	59	42	35	36	38	16,822	48.1	
嶺北消防組合	198	2	24	29	27	24	40	19	10	7,517	38.0	708	0	6	15	55	78	133	155	131	77	40	18	32,980	46.6	
鯖江・丹生消防組合	123	3	23	14	15	10	21	9	9	4,586	37.3	577	0	8	32	72	103	127	137	58	27	9	4	24,323	42.2	
南越消防組合	150	5	19	26	19	7	32	12	15	5,693	38.0	805	0	6	33	59	78	139	173	142	100	53	22	37,637	46.8	
敦賀美方消防組合	150	6	18	20	22	30	23	7	3	5,380	35.9	738	1	29	52	133	179	141	92	44	31	31	5	29,536	40.0	
若狭消防組合	124	4	18	22	21	11	16	8	10	4,506	36.3	964	1	17	97	171	195	208	131	75	45	17	7	38,544	40.0	
計	1,245	31	162	170	165	125	134	225	102	131	47,768	38.4	5,874	4	98	289	614	884	1,070	1,073	772	559	380	131	262,242	44.6

注:18歳〜19歳の欄は18歳未満含む。

第7表 在職年数別消防吏員および消防団員数

令和3年4月1日現在

年数別 消防本部名	消 防 吏 員								消 防 団 員							
	消				防				常 勤				非 常 勤			
	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上
福 井 市	368	63	59	40	20	32	47	107	999	225	192	209	124	96	80	73
大 野 市	55	5	10	8	4	6	10	12	441	54	136	83	46	48	37	37
勝 山 市	38	3	5	5	3	5	8	9	292	51	47	53	45	50	25	21
永 平 寺 町	39	7	9	2	1	6	10	4	350	165	72	52	28	18	13	2
嶺 北 消 防 組 合	198	26	37	38	15	11	41	30	708	113	140	139	111	103	53	49
鯖 江 ・ 丹 生 消 防 組 合	123	25	17	18	11	14	20	18	577	128	104	148	95	69	23	10
南 越 消 防 組 合	150	31	26	16	5	21	26	25	805	142	204	130	119	92	70	48
敦 賀 美 方 消 防 組 合	150	20	32	28	19	13	28	10	738	243	218	146	73	23	20	15
若 狭 消 防 組 合	124	19	27	20	10	14	12	22	964	419	236	160	90	42	12	5
計	1,245	199	222	175	88	122	202	237	5,874	1,540	1,349	1,120	731	541	333	260

第8表 消防ポンプ自動車等現有数(消防本部および署)

令和3年4月1日現在

区分	消防本部・署現有																					
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車 (ポンプ付でないものを含む)	消防ポンプ自動車	大型高所放水車	泡原液搬送車	化学消防ポンプ自動車	指揮車	照明車	積小型動力ポンプ付車 積小型動力ポンプ載り	積小型動力ポンプ付車 積小型動力ポンプ載り	広報車	資器材搬送車	屈折放水塔車	水槽車	支援車	人員搬送車	防災指導車	救急自動車	救助工作車	その他車両	
消防本部名																						
福井市消防局	18	3	2	1	1	1	3	5		7	6	4			1	1	1		11 (11)	2	8	
大野市消防本部	4		1				1	1			1	2			1				4 (4)	1		
勝山市消防本部	2	1	1					1			1	1							3 (3)	1	2	
永平寺町消防本部		3						1		2		1							3 (3)	1		
嶺北消防組合	6	4		1	1	1	4	5		5	1	5				1			8 (8)	3	9	
鯖江・丹生消防組合	5	1		1			2	2			7	2			1	1			6 (6)	1		
南越消防組合	7	4	1	1			2	3		1	7	5			1	1			8 (8)	3		
敦賀美方消防組合	3	4	1				2	1		6	1	5			1				6 (6)	2	8	
若狭消防組合	7	3		1			1	1		6	6	2					1		7 (7)	1	1	
計	52	23	4	2	2	1	15	20	0	27	30	27	0	4	4	4	4	1	56 (56)	15	28	

注:救急自動車の( )は高規格救急自動車で内数

第9表 消防ポンプ自動車等現有数（消防団）

令和3年4月1日現在

種別 消防本部名	消防団現有			
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	
			小型動力ポンプ付積載車	車両に積載していないもの
福井市	1		52	41
大野市	10		21	
勝山市	2		11	
永平寺町	10		10	
嶺北消防組合	35		7	
鯖江・丹生消防組合	34		3	3
南越消防組合	11		26	
敦賀美方消防組合	23		31	6
若狭消防組合	9		40	48
計	135	0	201	98

第10表 化学消火薬剤備蓄状況

令和3年4月1日現在

種別	計		化学消火剤種別															
	(A)	(B)	たんぱく系		合成界面	水成膜泡	水溶性液体用泡	粉末(kg)										
	(kg) (ア)～(オ)	(kg) (カ)～(ケ)	3%型 (kg) (ア)	6%型 (kg) (イ)	活性炭 (kg) (ウ)	消火薬剤 (kg) (エ)	消火薬剤 (kg) (オ)	第1種 粉未 (kg) (カ)	第2種 粉未 (kg) (キ)	第3種 粉未 (kg) (ク)	第4種 粉未 (kg) (ケ)							
消防本部名																		
福井市	14.69	0.00	10.40	0.09	1.63	2.23	0.34											
大野市	1.64	0.00			0.12	1.52												
勝山市	0.82	0.00			0.82													
永平寺町	0.50	0.00			0.50													
嶺北消防組合	29.61	0.00	5.06		3.32	19.77	1.46											
鯖江・丹生消防組合	4.42	0.00			2.56	1.86												
南越消防組合	1.91	0.00			0.44	1.47												
敦賀美方消防組合	4.57	0.00	0.85		2.52	0.92	0.28											
若狭消防組合	1.34	0.00			1.34													
計	59.50	0.00	16.31	0.09	13.25	27.77	2.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						

第 1 1 表 消防水利の状況

令和3年4月1日現在

種別	計	消火栓		小計(C)(D)+(E)				公設(D)				私設(E)				その他														
		小計	公設	私設	防火水槽		井戸		防火水槽		井戸		防火水槽		井戸		小計	河川	海	沼	下	その他								
(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	100 m <sup>3</sup> 以上	60 ～ 100	40 ～ 60	20 ～ 40	100 m <sup>3</sup> 以上	60 ～ 100	40 ～ 60	20 ～ 40	100 m <sup>3</sup> 以上	60 ～ 100	40 ～ 60	20 ～ 40	井戸	100 m <sup>3</sup> 以上	60 ～ 100	40 ～ 60	20 ～ 40	井戸	小計	川	湖	池	道	他		
消防本部分名																														
福井市	10,431	9,578	0	0	30	8	785	30	0	30	8	785	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	329	128		79	122	
大野市	841	481	0	0	3	3	301	26	27	0	1	233	16	27	2	68	10	0	0	0	0	0	0	8						
勝山市	647	433	0	0	3	2	196	13	0	3	2	196	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
永平寺町	443	179	0	0	1	19	233	11	0	1	19	233	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9						
嶺北消防組合	2,885	1,526	0	0	53	64	1,127	115	0	12	49	932	86	0	41	15	195	29	0	0	0	0	0	57	12	6	39			
鯖江・丹生消防組合	2,596	1,658	0	0	17	13	870	38	0	15	10	850	38	0	2	3	20	0	0	0	0	0	32				27		5	
南越消防組合	3,332	2,611	98	0	7	18	663	33	0	6	18	647	32	0	1	0	16	1	0	0	0	0	107	61	1	26	18		1	
敦賀美方消防組合	1,758	1,316	0	0	5	9	212	163	53	5	4	192	155	53	0	5	20	8	0	0	0	0	0							
若狭消防組合	1,653	1,081	0	0	1	6	507	58	0	1	2	499	52	0	4	8	6	0	0	0	0	0	31							
計	24,586	18,863	98	98	120	142	4,894	487	80	73	113	4,567	433	80	47	29	327	54	0	0	0	0	573	201	7	219	18	0	128	

第12表 消防機関の出動状況

令和2年中

区分	種別	県計	火災	風水害等の災害	演習訓練	広報指導	警防調査	火災原因調査	特別警戒	捜索	予防査察	誤報等	その他
		(ア)~(カ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)	(ク)
消防本部・署所	出動回数	18,159	170	6	2,586	1,717	5,844	261	1,772	37	4,300	53	1,413
	出動延人数	61,038	2,670	10	14,756	4,944	15,697	1,247	5,040	154	11,588	655	4,277
消防団	出動回数	3,150	92	4	812	189	0	0	420	0	0	23	1,610
	出動延人数	28,176	1,814	51	11,327	2,131	0	0	4,567	0	0	135	8,151

第13表 消防吏員および団員の公務による死傷者数

令和2年中

区分	種別	県計	火災	風水害等の災害	救急業務	演習訓練	特別警戒	捜索	その他
		(ア)~(キ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)
消防吏員	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	7	1	0	2	3	0	0	1
消防団	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	0	0	0	0	0	0	0	0

第14表 火災通報施設等の現況

令和3年4月1日現在

区分	火災報知機			テレビ 監視装置 (基)	望楼		電話					救急指令装置	
	受信機 (基)	発信機			小計 (ウ)+(エ) (基)	24時間 監視体 制をとつ ているもの (ウ) (基)	その他 (エ) (基)	小計 (カ)+(キ)+(ク) (回線)	消防機関にあるもの		加入電話 (キ) (回線)	救急 指令 専用	消防 指令 装置と併用
		小計 (ア)+(イ) (基)	公衆用 (ア) (基)						自衛用 (イ) (基)	火災報知 専用電話 (カ) (回線)			
消防本部名													
福井市	0				0		276	18	198	160	60		1
大野市	0			1	0		32	9	2	5	21		
勝山市	0				0		11	8			3		
永平寺町	0				0		18	8			10		1
嶺北消防組合	0				0		47	14			33		
鯖江・丹生消防組合	0				0		58	13	5	231	40	1	1
南越消防組合	0				0		55	12	2		41		
敦賀美方消防組合	0				0		44	13	9	259	22		
若狭消防組合	0			1	0		48	8	8		32		
計	0	0	0	2	0	0	589	103	224	655	262	1	3



第15表 無線通信施設等の現況

令和3年4月1日現在

種別	消防・救急業務用無線（デジタル方式）											携帯電話等				
	固定局			基地局および携帯基地局						移動局		その他の無線局数	衛星携帯電話保有数	救急車および救急隊	うち災害時 優先電話	
	局数		局の電波の数の その他	局数		電波の数				陸上移動局数	携帯局数					
	多重	その他		基地局	携帯基地局	統制波	主運用波	活動波	防災相互波							
消防本部名																
福井市	6			9		3	1	5		172			1	11	11	
大野市				3		3	1	2		37			3	4	3	
勝山市		13	13	3		3	1	2		42			1	2	2	
永平寺町				3		3	1	2		27			1	3	3	
嶺北消防組合				4		3	1	3		131			1	9	4	
鯖江・丹生消防組合				5		3	1	2		254			3	6	6	
南越消防組合				7		3	1	3		155			5	8	8	
敦賀美方消防組合				8		3	1	2		137			3	6	5	
若狭消防組合				6		3	1	2	1	136			1	6	6	
計	6	13	13	48	0	27	9	23	1	1,091	0	0	19	55	48	

第16表 幼年消防クラブの現況

令和3年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数							
	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市 単位	町 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市 単位	町 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	その他
消防本部名																		
福井市	2	2						39	39						2			
大野市	14	14						996	996						14			
勝山市	12	12						428	428						52			
永平寺町	10	10						544	544						48			
嶺北消防組合	45	45						4,156	4,156						45			
鯖江・丹生消防組合	38	38						1,476	1,476						104			
南越消防組合	35	35						802	802						39			
敦賀美方消防組合	37	37						2,654	2,654						37			
若狭消防組合	1	1						23	23						4			
計	194	194	0	0	0	0	0	11,118	11,118	0	0	0	0	0	345	345	0	0

第17表 少年消防クラブの現況

令和3年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数			
	計	学校単位		市町単位	地区単位	計	学校単位		市町単位	地区単位	計	学校単位		その他
		小学校	中学校				小学校	中学校				小学校	中学校	
消防本部名														
福井市	50	50				2,663	2,663				70	70		
大野市	14	9	5			354	432	78			13	9	4	
勝山市	16	3		4		340	799			61	47	9		38
永平寺町	11				11		230				54			54
嶺北消防組合	26	26				972	972				26	26		
鯖江・丹生消防組合	20	20				2,593	2,593				118	118		
南越消防組合	21	21				807	807				21	21		
敦賀美方消防組合	0					0	0				0	0		
若狭消防組合	0					0	0				0	0		
計	158	129	5	4	20	8,496	7,729	78	0	61	349	253	4	92

第18表 女性防火クラブの現況および活動状況

令和3年4月1日現在

種別	合計		周囲の状況						活動状況別組織数				
	組織数 (ア)+(イ)+(ウ)+(エ)	人員 (カ)+(キ)+(ク)+(ケ)	市街地		農山村地域		漁村地域		その他 組織数 (エ)	人員 (ケ)	活動状況別組織数		
			組織数 (ア)	人員 (カ)	組織数 (イ)	人員 (キ)	組織数 (ウ)	人員 (ク)			消火活動 を行う (a)	消火活動は 行わないが、 炊き出し、連 絡、救護等 を行う (b)	(a)(b)は行 わず、予防の 啓蒙活動を 行っている (c)
消防本部名													
福井市	41	1,636	18	579	20	590	3	467			8		33
大野市	1	33			1	33					1		
勝山市	7	63	2	30	5	33					7		
永平寺町	1	17	1	17									1
嶺北消防組合	2	515	2	515									2
鯖江・丹生消防組合	22	1,074	7	154	12	388	3	532			12		10
南越消防組合	17	214	11	120	6	94						17	
敦賀美方消防組合	7	1,466	2	1,418	2	27	3	21			5		2
若狭消防組合	13	188			8	133	5	55			13		
計	111	5,206	43	2,833	54	1,298	14	1,075	0	0	46	19	46

第19表 消防表彰受賞状況

種 類		年 度										
		平23	24	25	26	27	28	29	30	令元	2	
叙 勲		22	21	22	23	21	31	33	21	23	24	
藍 綬 褒 章				3	3	2				3	1	
消 防 庁 長 官 表 彰	功 勞 章	1	2	2	2	1	1	1				
	永年勤続功労章	21	21	21	21	22	22	23	23	23	24	
	表 彰 旗											
	竿 頭 綬			1	1	1						
	消防団 地域 活動	消 防 団	1	1	1	1	1	1				
		事 業 所	1				1			1	4	
	少年 消防 クラブ	表 彰 旗			1							
		表 彰 楯	1	1		1	1	1	1	1	1	
		指 導 者										
	福 井 県 知 事 表 彰	功 勞 章	40	40	40	40	40	40	40	40	40	39
永年勤続精績章		155	152	154	177	132	168	149	154	137	120	
銀 杯		30 年 以 上										
		退職10～15年未満	70	67	71	73	49	55	67	58	68	47
感 謝 状		退 職 幹 部	22	22	33	16	49	23	20	17	19	20
		人 命 救 助 そ の 他										
		夫 人 表 彰	33	28	26	33	33	31	26	47	44	36
竿 頭 綬			35	46	46	47	49	52	45	49		
特 別 功 勞 章												

## 第 7 章 消防教育訓練

### 1 消防学校の概要

#### (1) 沿革

昭和 3 4 年 7 月 1 6 日 福井市水越町に福井県消防学校設置  
 昭和 4 7 年 1 1 月 1 日 福井市合谷町へ移転  
 平成 8 年 4 月 1 日 福井市大畑町へ再移転、現在に至る。

#### (2) 施設概要

ア 所在地等 (ア) 所在地 福井市大畑町97-21-3  
 (イ) 敷地面積 40,759.02㎡  
 イ 建物工作物等

#### 建物構造および規模

・ 敷地面積…………… 40,759.02㎡      ・ 建物延面積…………… 8,001.62㎡

名 称	規模・構造	延べ面積(㎡)	内 容
教育管理棟 宿泊施設(3階)	R C 造 3 階	3,249㎡	1階 校長室 講師控室 職員室 会議室 女性専用寮室(2室) 宿直室 2階 普通教室(60人)(40人) 談話室 図書室 視聴覚室 理化学室(各種実習室併設) 等 3階 寮室(20室) トレーニングルーム 娯楽室
体育館	鉄骨造2階建	2,106.25㎡	1階 食堂 学生ホール 和室 倉庫 2階 アリーナ
雨天訓練場	鉄骨平屋建	1,091.22㎡	訓練場(救助、ポンプ操法訓練施設) 訓練資器材庫 訓練車両庫
訓練塔(主)	S R C 造 地下1階建 地上8階建	594.84㎡	立坑訓練室 耐煙迷路室 消火設備実験室 垂直救助訓練 水平ロープ渡過 ブリッジ救出訓練施設 放水訓練室 水平救助・担架吊り下げ救出訓練施設 梯子車注水訓練室 積載梯子上救出訓練施設 梯子車進入訓練室 高所活動・人命検索訓練施設 救助袋等避難器具取扱訓練室 地下火災実験室
訓練塔(補助)	鉄骨造 地上7m	A塔 70.44㎡ B塔 32.86㎡	人命救助訓練施設 引上救助訓練施設 中高層建物防御訓練施設 斜め救助訓練施設 障害突破 垂直降下訓練施設
水難訓練用プール (兼、潜水訓練)	F R P 製	25m×5コース 容量630m³	水深1.5m～3.0m 採水口4箇所(ポンプ車用) 機械室・便所(34.43㎡)
その他施設			油火災消火訓練施設(耐火レンガ造) 直径3m×高さ0.5m 防火訓練壁 幅14m×高さ4m 受水槽20㎡ 煙道訓練施設 間口1.0m×1.0m 模擬火災訓練家屋(可搬式プレハブ型模擬ハウス) 山岳救助訓練施設(25m×60m)
屋外訓練場		7,800㎡(120m×65m)	1周200mグラウンド

### 2 教育訓練

消防職団員の各種教育訓練を第1表および第2表のように実施し、人的消防力の充実向上を図るとともに、より高度の専門的知識を修得させた。  
 また、第3表のとおり消防大学校へ職員を派遣した。

第1表 令和2年度 消防本部別受講者数

区分	教育訓練の種類	項目	実施年月日	教育 実日数	延時間	消防本部										合計
						福井	敦賀美方	南越	若狭	大野	勝山	鯖江丹生	嶺北	永平寺	その他	
消防職員	初任教育(第55期)	初級幹部科	R2. 4. 2~9. 25	118	821	12	7	5	4			1	6	4	3	42
			隔年実施のため実施なし													
	幹部教育	中級幹部科(第32期)	R2. 12. 2~12. 10	7	49	2	2	1	2			1	1	2	1	13
			中止													
	専科教育	警防科(第38期)	R2. 11. 12~11. 26	10	70	2	2	2	2			1	1	4	1	16
			隔年実施のため実施なし													
		予防査察科(第16期)	R3. 2. 3~2. 17	10	70	3	2	1	2	1				3	1	13
			危険物科(第35期)	R3. 1. 6~1. 15	7	49	4	2	1	2	1		1	1	4	1
		火災調査科	隔年実施のため実施なし													
	救助科(第44期)	R2. 10. 6~11. 6	23	161	2	2	1	2	1			1	1	4	1	15
		救急科(第28期)	R3. 1. 26~3. 18	36	252	4	4	5	4	2		1	6	8	1	36
		水難救助科 中止	R1. 7. 3~7. 19													
	特別教育	特別講座等	(下記公開講座に記載)													
		操法指導員教育	中止													
		起震車操作員教育(新規養成)	R2. 11. 10	1	3	3	4	2	2	1		2	4	4	2	22
小計			212	1,475	32	25	16	20	8	8	20	33	11	1	174	
初級幹部科		R2. 11. 7~11. 8	2	12	2	1	3	2	2	2	1	2	3	18		
消防団員	指揮幹部科	現場指揮課程	R2. 11. 14~11. 15	2	14	2	2	3	1	2	2	2	2	1	17	
		分団指揮課程	R2. 12. 5~12. 6	2	10	2	2	3	1	2	1	2	2	2	17	
	消防団員指導員教育(日消)	小計	R2. 10. 31~11. 1	2	12	1	2	3	3	1	1	1	2	2	1	16
		小計		8	48	7	7	12	7	7	6	7	8	7	68	
	自衛消防隊幹部教育	中止														
	女性防火クラブ員教育	中止														
	自主防災組織員教育(第1回)	中止														
	自主防災組織員教育(第2回)嶺南	中止														
	自主防災組織員教育(第3回)	中止														
	小計															
合計			220	1,523	39	32	28	27	15	14	27	41	18	1	242	
公開講座	中級幹部科	R2. 12. 7	1	4	6	5	4	2	2	2	2	3	4		28	
		警防科	R2. 11. 19	1	4	7	5	5	2	2	2	4	4	2		32
	危険物科	R3. 1. 12	1	4	7	4	4	5	5	2	3	3	4	1	33	
		救急科	R3. 3. 1	1	4	5	5	4	3	2	3	4	5	3		34
公開講座合計		4	16	25	19	17	15	8	8	10	10	17	6	127		
総計			224	1,539	64	51	45	42	23	24	37	58	24	1	369	

第2表 令和2年度消防学校教育訓練実施状況

区分	項	入校者数	教育実日数	教育時間数	担当講師別時間数				
					学校	県	消防	専門	
消防職員	初任教育(第55期)	42	118	821	520	42	217	42	
	幹部教育	初級幹部科							
		中級幹部科(第32期)	13	7	49	4	4	25	16
		上級幹部科							
	専科教育	警防科(第38期)	16	10	70	20	7	21	22
		特殊災害科							
		予防査察科(第16期)	13	10	70	10	4	53	3
		危険物科(第35期)	17	7	49	5	8	25	11
		火災調査科							
		救助科(第44期)	15	23	161	17	8	109	27
	特別教育	救急科(第28期)	36	36	252	14	4	64	170
水難救助科									
操法指導員教育									
	起震車操作員教育(新規養成)	22	1	3	3				
	小計	174	212	1,475	593	77	514	291	
消防団員	初級幹部科	18	2	12	10			2	
	指揮幹部科								
		現場指揮課程	17	2	14	1		13	
		分団指揮課程	17	2	10	8	2		
	消防団指導員教育(日消)	16	2	12	11	1			
	小計	68	8	48	30	3	13	2	
一般・その他	自衛消防隊幹部教育								
	女性防火クラブ員教育								
	自主防災組織員教育								
	小計	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	242	220	1,523	623	80	527	293	
公開講座	中級幹部科	28	1	4				4	
	警防科	32	1	4				4	
	危険物科	33	1	4				4	
	救急科	34	1	4				4	
	公開講座合計	127	4	16	0	0	0	16	
	総合計	369	224	1,539	623	80	527	309	

第3表 令和2年度消防大学校派遣者数

学 科	派遣者数	備 考
幹 部 科	(第63期)	永平寺町消防
	(第64期)	福井市消防
警 防 科	1	嶺北消防
救 急 科	1	鯖江・丹生消防
予 防 科	1	嶺北消防
火 災 調 査 科	1	南越消防
新 任 教 官 科	1	勝山市消防
現 任 教 官 科	1	消防学校
航 空 隊 長 コ ー ス	1	防災航空事務所
合 計	9	



# 防 災 編

---



# 第1章 災害の発生状況

## 1 令和2年中の災害発生状況

### (1) 人的被害

軽傷者16人

### (2) 住家被害

床下浸水3棟

第1表 令和2年中の災害発生状況

発生年月日		災害名	豪雨		豪雨		地震	大雪		計	
			6月10日～16日	6月27日～28日	7月8日	7月10日～14日	9月4日	12月19日～20日	12月31日		
区分											
人的被害	死者	人								0	
	行方不明者	人								0	
	負傷者	重傷	人								0
		軽傷	人					13	2	1	16
住家被害	全壊	棟								0	
	半壊	棟								0	
	一部破損	棟								0	
	床上浸水	棟								0	
	床下浸水	棟			3					3	
非住家	公共建物	棟								0	
	その他	棟								0	
その他	田	流失・埋没	ha							0	
		冠水	ha							0	
	畑	流失・埋没	ha							0	
		冠水	ha							0	
	学校	箇所								0	
	病院	箇所								0	
	道路	箇所	3	1		1				5	
	橋りょう	箇所								0	
	河川	箇所	5							5	

発生年月日		災害名		豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	地震	大雪	大雪	計
				6月10日～16日	6月27日～28日	7月8日	7月10日～14日	9月4日	12月19日～20日	12月31日	
区分											
そ の 他	港 湾	箇所									0
	砂 防	箇所	4								4
	清掃施設	箇所									0
	崖くずれ	箇所									0
	鉄道不通	箇所									0
	被害船舶	隻									0
	水 道	戸									0
	電 話	回線									0
	電 気	戸									0
	ガ ス	戸									0
火災発生	建 物	件									0
	危険物	件									0
	その他	件									0
り災世帯数		世帯									0
り災者数		人									0
公立文教施設		千円									0
農林水産業施設		千円	5,023								5,023
公共土木施設		千円	115,294	43,407		71,287					229,988
その他の公共施設		千円									0
公共施設被害市町村数		団体	4	1		1					6
その他被害		千円									0
被害総額		千円	120,317	43,407		71,287					235,011
都道府県	設 置										/
災害対策本部	解 散										
災害対策本部設置市町							1				1
災害救助法適用市町											/
消防職員出動延人数		人									0
消防団員出動延人数		人									0

## 2 過去5年間の災害発生状況（平成28年～令和2年）

年月日	種類	被害状況	気象状況
2015 (平27) 12.17  ～  2016 (平28) 2.29	大雪	(1)人的被害 軽傷 4人	12月は低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、1月24日から25日にかけて嶺北中心に、2月中頃は嶺南中心に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となった。 (日最大降雪量(2016年1月～2月)) 福井 36 cm 1月24日 敦賀 21 cm 2月16日 九頭竜 35 cm 1月19日 大野 34 cm 1月24日 武生 26 cm 1月25日 今庄 50 cm 1月25日 小浜 15 cm 2月16日 (最深積雪(2016年1月～2月)) 福井 47 cm 1月26日 敦賀 21 cm 2月16日 九頭竜 87 cm 1月25日 大野 57 cm 1月25日 武生 39 cm 1月25日 今庄 59 cm 1月25日 小浜 27 cm 2月16日
2016 (平28) 4.17	暴風	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 15,075千円	華中で前線上に発生した低気圧が、発達しながら北東に進み、17日未明には朝鮮半島に、その後も発達しながら日本海を北東に進み、17日夜には北海道西海上に進んだ。この低気圧の影響で福井県内では、16日夜から風が強まり、17日昼過ぎにかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(17日)) 三国 21.2m/s(南) 10時35分 敦賀 20.0m/s(南南東)06時41分 (日最大瞬間風速(17日)) 敦賀 32.9m/s(南南東)08時08分 三国 30.1m/s(南) 11時13分
2016 (平28) 5.3	暴風	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 10棟 (3)非住家被害 その他 3棟 (4)農林水産業施設被害 15,000千円 (5)その他の公共施設被害 854千円 (6)その他被害 6,800千円	黄河下流で発生した低気圧は、ボツ海から黄海付近を通過し、中国東北区を進んだ3日昼頃にかけて急速に発達し、その後は東北東進した。この低気圧からのびる寒冷前線が、3日夜から4日未明にかけて北陸地方を通過した影響で、福井県内では、3日未明から風が強まり、夜遅くかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(3日)) 敦賀 22.9m/s(南南東)20時15分 三国 21.7m/s(南南東)22時05分 (日最大瞬間風速(3日)) 敦賀 35.8m/s(南東) 11時17分 三国 31.6m/s(南南東)21時57分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2016 (平28) 6.25	大雨	(1)農林水産業施設被害 9,757千円	前線を伴った低気圧が日本海を北東進した影響で、嶺北を中心に大雨となり強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(26日)) 三国 42.0mm 05時33分
2016 (平28) 9.20	台風 16号	(1)住家被害 床上浸水 1棟 一部破損 1棟 (2)公共土木施設被害 224,135千円 (3)その他被害 1,136千円 (4)災害対策本部設置市町 敦賀市、池田町	台風16号が、太平洋沿岸を北東進した影響で、福井県では、19日から20日にかけて雨が降り、強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(20日)) 敦賀 33.5mm 14時46分 九頭竜 28.5mm 16時11分 小浜 28.5mm 13時24分 (日降水量(20日)) 九頭竜 117.0mm、大飯 109.5mm
2016 (平28) 10.5	台風 18号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 300千円	台風18号が、対馬海峡から山陰沖を通過し能登半島沖に進んだ影響で、福井県では、5日昼前から風が強まり、5日夜遅くにかけて強い風を観測した所があった。 (日最大風速(5日)) 敦賀 16.0m/s(南南東)16時10分 三国 18.4m/s(南) 19時31分 (日最大瞬間風速) 三国 26.4m/s(南) 19時25分 敦賀 25.3m/s(南南東)15時52分
2017 (平29) 8.7~8	台 風 5 号	(1)住家被害 全壊 1棟 床下浸水 3棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 3箇所 (4)その他被害 河川 24箇所 (5)その他被害 港湾 2箇所 (6)その他被害 砂防 5箇所 (7)公共土木施設被害 393,080千円 (8)災害対策本部設置市町 小浜市	台風第5号は、四国の南を通り、7日15時半頃に暴風域を伴ったまま和歌山県北部に上陸した。上陸後は近畿地方を北東に進み8日には石川県白山市付近を通過した影響で、福井県では、7日から8日にかけて断続的に強い雨が降った。 8日は激しい雨を観測した所もあり、7日00時から8日24時にかけての総降水量は、奥越、嶺南を中心に200mmを超えた所があった。 (日最大1時間降水量(8日)) 美山 41.0mm 06時45分 小浜 35.0mm 00時55分 (7日~8日の期間降水量) 九頭竜 223.5mm、敦賀 207.5mm
2017 (平29) 8.12	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 道路 1箇所 (4)公共土木施設被害 20,496千円 (5)災害対策本部設置市町 高浜町	気圧の谷や湿った空気の影響で、嶺南では激しい雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(12日)) 大飯 45.5mm 04時14分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2017 (平29) 8.25	大雨	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被 16,588千円 (5)災害対策本部設置市町 永平寺町	低気圧から伸びる前線が北陸地方を南下したため、雷を伴って激しい雨の降った所があった。  (日最大1時間降水量(25日)) 勝山 42.0mm 10時03分 大野 39.0mm 11時00分 福井 34.5mm 09時45分 春江 34.0mm 09時27分
2017 (平29) 9.18	台風18号	(1)住家被害 床下浸水 5棟 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 砂防 1箇所 (5)電気被害 31戸 (4)公共土木施設被 275,419千円	台風第18号が、兵庫県明石市付近に上陸した後、17日夜遅くから18日未明にかけて福井県を通過した影響で、福井県では激しい雨の降った所があった。 また、台風が最も接近した17日夜遅くから風が強まり、18日未明に強い風を観測した所があった。  (日最大1時間降水量(18日)) 越廼 43.5mm 00時12分 (日最大1時間降水量(17日)) 大飯 38.0mm 23時34分 三国 37.5mm 23時16分 九頭竜 35.0mm 23時25分 (17日～18日の期間降水量) 大飯 114.5mm、小浜 112.5mm (日最大風速(18日)) 敦賀 17.2m/s(北西)00時32分 小浜 16.8m/s(北西)00時49分 (日最大瞬間風速(18日)) 敦賀 26.2m/s(北西)00時24分 小浜 30.6m/s(北北西)00時40分
2017 (平29) 10.22～ 23	台風21号	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 4人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 609棟 床上浸水 5棟 床下浸水 57棟 (3)非住家被害 公共施設 9棟 その他 87棟 (4)その他被害 学校 20箇所 (5)その他被害 病院 1箇所 (6)その他被害 道路 127箇所 (7)その他被害 橋りょう 1箇所 (8)その他被害 河川 89箇所 (9)その他被害 港湾 4箇所 (10)その他被害 砂防 31箇所 (11)その他被害 清掃施設 2箇所 (12)その他被害 崖くずれ 4箇所 (13)その他被害 被害船舶 9隻 (14)電話被害 4回線 (15)電気被害 7,545戸 (16)公共文教施設被害 15,912千円	台風第21号が、静岡県御前崎市付近に上陸した後、東海地方および関東地方を北東に進んだ影響で、福井県では激しい雨を観測した所があった。 台風が最も接近した22日夜遅くから23日未明にかけて、非常に強い風を観測した所があった。  (日最大1時間降水量(22日)) 大飯 38.0mm 22時33分 越廼 34.5mm 23時21分 (日最大1時間降水量(23日)) 大飯 31.0mm 00時01分 (22日～23日の期間降水量) 大飯 304.0mm、小浜 279.0mm 今庄 253.0mm、 (日最大風速(23日)) 春江 23.1m/s(北)01時47分 今庄 22.5m/s(北)02時43分 小浜 20.3m/s(北)01時04分 (日最大瞬間風速(23日)) 春江 33.4m/s(北)01時44分 今庄 36.8m/s(北)02時37分 小浜 38.8m/s(北)02時07分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
		(17)農林水産業施設被害 479,172 千円 (18)公共土木施設被害 4,124,326 千円 (19)その他の公共施設被害 129,904 千円 (20)その他被害 592,067 千円 (21)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 越前市、永平寺町、越前町、 高浜町、おおい町	
2018 (平30) 1.12～14	大雪	(1)人的被害 死者 1人 重傷 4人 軽傷 8人 (2)住家被害 一部損壊 1棟 (3)農産被害 24,314 千円	1月中旬から2月中旬にかけて、強い寒気が周期的に入った。 特に、2月3日から8日は強い冬型の気圧配置が続いたため、嶺北を中心に記録的な大雪となった。 嶺北では5日夜遅くから6日昼前にかけて1時間に5cmを超える強い雪が断続的に降り、6日10時までの12時間で50cm前後の降雪量を観測した所があった。 7日15時には福井市の積雪がこの期間の最深の147cmに達し、昭和56年の豪雪(196cm)以来の大雪となった。
2018 (平30) 1.24～29	大雪	(1)人的被害 重傷 6人 軽傷 1人 (2)その他 学校 1箇所	8日午後から10日は一時的に冬型の気圧配置は緩んだが、11日から13日前半にかけて再び冬型の気圧配置が強まり、嶺北中心に大雪となった。 (最深積雪(2017年12月～2018年2月)) 福井 147cm(2月7日) 武生 130cm(2月13日) 大野 177cm(2月13日) 九頭竜 301cm(2月13日) 今庄 162cm(2月13日) 敦賀 57cm(2月8日) 小浜 48cm(2月8日) (大雪警報発表日) 1月11日、1月12日、1月13日、1月24日、 2月4日、2月5日、2月6日、2月7日、 2月8日、2月12日、2月13日
2018 (平30) 2.5～22	大雪	(1)人的被害 死者 12人 重傷 26人 軽傷 94人 (2)住家被害 全壊 1棟 半壊 6棟 一部破損 542棟 床下浸水 7棟 (3)非住家被害 公共建物 6棟 その他 121棟 (4)その他 学校 26箇所 (5)その他 道路 1箇所 (6)その他 橋梁 1箇所 (7)公立文教施設被害 5,627 千円 (8)農林水産業施設被害 205,417 千円 (9)公共土木施設被害 309,201 千円 (10)その他公共施設被害 35,588 千円 (11)その他被害 1,027,460 千円 (12)災害対策本部設置市町 福井市、大野市、勝山市、 鯖江市、あわら市、越前市、 坂井市、永平寺町	
2018 (平30) 3.5	大雪	(1)人的被害 死者 1人 (2)住家被害 一部破損 1棟	
2018 (平30) 3.8	融雪	(1)その他 道路 1棟 (2)公共土木施設被害 19,051 千円	



年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2018 (平30) 3.22～23	融雪	(1)その他 道路 1 棟 (2)公共土木施設被害 17,722 千円	
2018 (平30) 7.4～12	大雨	(1)住家被害 一部破損 4 棟 床上浸水 3 棟 床下浸水 18 棟 (2)非住家被害 その他 1 棟 (3)その他 学校 2 箇所 (4)その他 道路 26 箇所 (5)その他 河川 37 箇所 (6)その他 港湾 15 箇所 (7)その他 崖崩れ 2 箇所 (8)電気被害 24 戸 (9)公立文教施設被害 450 千円 (10)農林水産業施設被害 101,733 千円 (11)公共土木施設被害 2,638,337 千円 (12)その他の公共施設被害 458 千円 (13)その他被害 1,157 千円 (14)災害対策本部設置市町 敦賀市、大野市、あわら市、 越前市、永平寺町、 南越前町、越前町、高浜町	4 日は台風第 7 号が日本海を北東に進み、その後、8 日にかけて梅雨前線が本州付近に停滞した。 日本付近には暖かく湿った空気が供給され続けたため、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。 福井県では、多い所では 4 日から 8 日までの総降水量が 400mm を超える大雨となった。 (4 日から 8 日までの総降水量) 九頭竜 424.5mm、三国 417.0mm、越廼 330.0mm 三国、越廼、勝山、武生、今庄、美浜、大飯では 7 月の日降水量の極値を更新した。 (極値を更新したアメダス) 三国(7 日:164mm)、越廼(7 日:193mm)、 勝山(5 日:178mm)、武生(5 日:183mm)、 今庄(5 日:161mm)、美浜(5 日:131.5mm)、 大飯(7 日:151mm) 平成 30 年 6 月 28 日以降の台風第 7 号や梅雨前線の影響によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、気象庁は、この大雨の名称を「平成 30 年 7 月豪雨」と定めた。
2018 (平30) 8.24	台風 20号	(1)人的被害 軽傷 3 人 (2)住家被害 一部破損 24 棟 (3)非住家被害 公共建物 1 棟 その他 1 棟 (4)田 冠水 3.0ha (5)その他 学校 2 箇所 (6)その他 道路 17 箇所 (7)その他 鉄道不通 1 箇所 (8)その他 被害船舶 3 隻 (9)電気被害 20 戸 (10)公立文教施設被害 1,296 千円 (11)農林水産業施設被害 146 千円 (12)公共土木施設被害 20,992 千円 (13)その他の公共施設被害 715 千円 (14)その他被害 1,100 千円 (15)災害対策本部設置市町 小浜市、鯖江市	台風第 20 号は、23 日は、四国の南海上を北上し、強い勢力で暴風域を伴ったまま 23 日 21 時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま四国から近畿地方を北上し、24 日 2 時に日本海に抜けた後、15 時に秋田県沖で温帯低気圧に変わった。 (日最大風速(24 日)) 福井 17.4m/s(南東) 00 時 49 分 敦賀 21.3m/s(南南東)03 時 00 分 (日最大瞬間風速(24 日)) 福井 29.5m/s(南) 03 時 16 分 敦賀 37.5m/s(南東)00 時 50 分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2018 (平30) 9.4～5	台風 21号	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 6人 (2)住家被害 半壊 4棟 一部破損 115棟 (3)非住家被害 公共建物 1棟 その他 8棟 (4)その他 学校 12箇所 (5)その他 道路 9箇所 (6)その他 河川 6箇所 (7)その他 砂防 1箇所 (8)その他 鉄道不通 1箇所 (9)その他 被害船舶 1隻 (10)電気被害 5,200戸 (11)公立文教施設被害 7,674千円 (12)農林水産業施設被害 10,142千円 (13)公共土木施設被害 76,052千円 (14)その他の公共施設被害 82,999千円 (15)その他被害 2,792千円 (16)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 永平寺町、南越前町	台風第21号は暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して4日12時頃に徳島県南部に上陸した。 その後も暴風域を伴ったまま北北東に進み、14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸した。 15時には若狭湾に達し、日本海を北上した後、5日9時に間宮海峡で温帯低気圧に変わった。 (日最大風速(4日)) 福井 21.8m/s(南南東)15時59分 敦賀 26.3m/s(南南東)15時29分 (日最大瞬間風速(4日)) 福井 37.9m/s(南) 16時22分 敦賀 47.9m/s(東南東)15時00分
2018 (平30) 9.30～ 10.1	台風 24号	(1)住家被害 一部破損 3棟 (2)その他 砂防 1箇所 (3)その他 鉄道不通 1箇所 (4)電話被害 6回線 (5)公共土木施設被害 7,430千円 (6)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、鯖江市、 永平寺町、南越前町、高浜町	台風第24号は、四国の南海上を北東に進み、非常に強い勢力を維持して30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。 その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10月1日12時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。 (日最大風速) 福井 12.0m/s(北北西)1日00時27分 敦賀 21.8m/s(北北西)30日23時49分 (日最大瞬間風速) 福井 23.7m/s(北) 1日00時08分 敦賀 30.8m/s(北北西)30日23時42分
2017 (平29) 12.25～ 2019 (平31) 1.4	地滑り	(1)公共土木施設被害 1,157,665千円	福井市蔵作町の主要地方道武生美山線において、12月25日に一次崩壊が発生し、12月29日から1月3日にかけて斜面が高さ85m、巾60m、深さ10mにわたる地すべりによって、約1万㎡の土砂が道路を寸断した。 12月25日～29日まで片側交互通行を行っていたが、12月29日から平30年1月4日までは全面通行止め。迂回路の設置完了に伴い、1月4日から片側交互通行とし、付替道路の設置完了に伴い、令和3年7月7日から対面通行を開始した。

年月日	種類	被害状況	気象状況
2019 (令元) 8.16	台風 10号	(1)農林水産業施設被害 9,488千円	台風第10号は、日本の南海上を北西に進み、次第に進路を北に変え、15日11時過ぎに愛媛県佐田岬半島付近を通過した後、15日15時頃に広島県呉市付近に上陸し、中国地方を縦断後に日本海を北上した。 (日最大1時間降水量) 九頭竜 29.5mm 16日02時48分 (日降水量) 九頭竜 92.0mm 16日 (期間降水量(15日～16日)) 九頭竜 138.0mm (日最大風速(15日)) 福井 14.8m/s(南南東)21時33分 敦賀 19.2m/s(南南東)19時07分 (日最大瞬間風速(15日)) 福井 23.9m/s(南東)19時17分 敦賀 33.5m/s(南南東)19時03分
2019 (令元) 10.12～ 10.13	台風 19号	(1)人的被害 重傷 1人 (2)公共土木施設被害 37千円 (3)その他の公共施設被害 1,099千円 (4)その他被害 25,726千円	台風第19号は、マリアナ諸島を西に進み、一時大型で猛烈な台風が発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13日12時に日本の東で温帯低気圧に変わった。 (日最大1時間降水量) 小浜 13.5mm 12日13時25分 今庄 12.0mm 12日15時03分 (日降水量) 小浜 113.0mm 12日 今庄 100.0mm 12日 (期間降水量(12日～13日)) 小浜 127.0mm 今庄 111.0mm (日最大風速(12日)) 福井 12.5m/s(北北西)20時41分 春江 18.7m/s(北)21時01分 敦賀 20.0m/s(北西)20時06分 (日最大瞬間風速(12日)) 福井 22.3m/s(北北西)23時48分 春江 27.8m/s(北北西)20時36分 敦賀 29.9m/s(北北西)19時22分
2020 (令2) 6.10～ 6.16	大雨	(1)農林水産業施設被害 5,023千円 (2)公共土木施設被害 115,294千円	梅雨前線が日本付近に停滞した影響により14日を中心に激しい雨が降り大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 越廼 39.5mm 14日17時54分 春江 38.0mm 14日18時05分 福井 36.0mm 14日18時17分 敦賀 32.0mm 14日19時37分 小浜 31.5mm 13日07時49分 (日降水量) 春江 125.5mm 14日 越廼 111.0mm 14日 三国 108.5mm 14日 勝山 105.0mm 14日 福井 103.5mm 14日

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2020 (令2) 6.27～ 6.28	大雨	(1)公共土木施設被害 43,407千円	梅雨前線の影響により28日は非常に激しい雨が降り、大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 越廼 50.0mm 28日 02時13分 福井 36.5mm 28日 02時40分 美山 36.0mm 28日 03時23分 (日降水量) 越廼 97.0mm 28日 福井 78.5mm 28日 美山 57.5mm 28日
2020 (令2) 7.8	大雨	(1)住家被害 床下浸水 3棟	活発な梅雨前線の影響により大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 九頭竜 29.5mm 8日 03時42分 敦賀 26.5mm 8日 05時07分 今庄 19.5mm 8日 05時30分 (日降水量) 九頭竜 80.0mm 8日 敦賀 53.0mm 8日 今庄 53.0mm 8日
2020 (令2) 7.10～ 7.14	大雨	(1)公共土木施設被害 71,287千円	梅雨前線が日本付近に停滞した影響により大雨となった所があった。 (日最大1時間降水量) 三国 21.5mm 11日 05時16分 春江 19.5mm 11日 06時39分 美山 19.0mm 11日 05時47分 (日降水量) 九頭竜 68.5mm 13日 勝山 51.0mm 13日 春江 42.5mm 11日 今庄 42.5mm 13日
2020 (令2) 9.4	地震	(1)人的被害 軽傷 13人	福井県嶺北を震源とする地震 9月4日09時10分 M5.0 深さ7km 北緯 36度06.9分 東経 136度11.3分 震度5弱 坂井市 震度4 福井市、あわら市 震度3 鯖江市、永平寺町、越前町、越前市

年月日	種類	被害状況	気象状況
2020 (令2) 12.19～ 12.20	大雪	(1)人的被害 軽傷 2人	12月14日～20日にかけて、強い冬型の気圧配置となり、上空には強い寒気が流れ込んだ影響により奥越では大雪となった。 (日降雪量最大値) 大野 24cm 12月16日 九頭竜 40cm 12月16日 (最深積雪) 大野 45cm 12月20日 九頭竜 77cm 12月18日
2020 (令2) 12.31～ 2021 (令3) 1.1	大雪	(1)人的被害 軽傷 1人	12月31日から1月1日にかけて、強い冬型の気圧配置となり、上空には強い寒気が流れ込んだ影響により大雪となった。 (日最大降雪量) 福井 10cm 12月31日 武生 10cm 1月1日 大野 21cm 1月1日 九頭竜 36cm 1月1日 今庄 27cm 12月31日 敦賀 18cm 12月31日 小浜 12cm 12月31日 (最深積雪) 福井 17cm 12月31日 武生 18cm 1月1日 大野 63cm 1月1日 九頭竜 98cm 1月1日 今庄 35cm 1月1日 敦賀 22cm 1月1日 小浜 11cm 12月31日

## 第2章 令和2年の天候概況

### 1 天候の特徴

#### ◇ 年（1月～12月）の概況

1月～2月は暖冬（記録的な暖冬、少雨、多照、記録的な少雪）。低気圧や気圧の谷の影響で雨や曇りの日が多かったが、冬型の気圧配置は一時的で雪の日は少なかった。また、寒気の南下が弱く、暖かい空気に覆われたため、月の気温は記録的に高く、降雪量も記録的に少なかった。全てのアメダス地点で1月の平均気温の高い方からの極値を更新した。

3月～5月は、高温・多照。3月と5月には南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため気温が高かった。また、3月は高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから日照時間が多かった。

6月～8月は、かなりの多雨。6月は高気圧に覆われ、晴れた日もあったが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、かなりの高温、かなりの多雨となった。7月は前線や湿った空気の影響で雨や曇りの日が多く、多雨、かなりの寡照となった。8月は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

9月～11月は、かなりの高温。9月は台風第9号や台風第10号の北上により南から暖かい空気が流れ込んだため気温が高くなった。10月は雨や曇りの日が多かったが高気圧に覆われて晴れた日もあった。11月は中旬を中心に高気圧に覆われ晴れた日が多く、高温、多照となった。

12月は、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変わった。中旬の後半以降は、冬型の気圧配置となり、曇りや雪または雨の日が多く、大雪となった所もあった。また、中旬は日照時間がかなり少なく、下旬は降水量がかなり多かった。

官署等	平均気温			降水量			日照時間		
	本年(°C)	平年差(°C)	階級区分	本年(mm)	平年比(%)	階級区分	本年(h)	平年比(%)	階級区分
福井	15.6	+0.8	かなり高い	2531.5	110	多い	1695.3	103	平年並
敦賀	16.3	+0.7	高い	2461.0	112	多い	1619.8	101	平年並

※平年差（比）は、平年値（1991年～2020年の30年平均値）から求めている。

#### ◇ 台風

台風の年間発生数は平年より少ない23個（平年値25.1個）となり、日本への接近数は7個（平年値11.7個）、上陸数は0個（平年値3.0個）。北陸地方への接近数は0個（平年値2.8個）となった。

#### 【台風発生数・上陸数】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	平年値
発生					1	1		8	3	6	3	1	23	25.1
上陸 (注1)													0	3.0
北陸地方に 接近した台風													0	2.8

(注1) 「上陸」は台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。

※台風の中心が新潟県、富山県、石川県、福井県のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「北陸地方に接近した台風」としている。

・接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

## 2 月別気象概況

### ◇ 2020年（令和2年）月別気象概況

#### 1月

冬型の気圧配置や低気圧の影響で雨や曇りの日が多くなったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

平均気温は全ての地点で平年よりかなり高くなった。全地点で1月の平均気温の高い方からの極値を更新した。

降水量は、大飯で平年よりかなり少なく、春江、九頭竜では平年より多く、大野、美浜、小浜では平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、三国で平年より多く、越廼、美浜では平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

#### 2月

冬型の気圧配置や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多くなったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

平均気温は、大野で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

降水量は、敦賀、美浜、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、全ての地点で平年並となった。

#### 3月

冬型の気圧配置や低気圧の影響により、曇りや雨の日が多くなったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。

平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

降水量は、大飯で平年よりかなり少なく、美浜、小浜では平年より少なく、勝山、美山、九頭竜、今庄では平年より多く、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、三国、越廼で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

#### 4月

高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わった。気温は寒気の影響により、平年を下回る日が多くなった。

平均気温は、三国、勝山で平年より低く、その他の地点では平年よりかなり低くなった。

降水量は、春江、勝山で平年並、小浜、大飯では平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、越廼で平年より少なく、福井、勝山では平年より多く、その他の地点では平年並となった。

## 5月

高気圧に覆われて晴れた日が多くなり、南からの湿った空気の影響を受けにくく、少雨となった。平均気温は、三国、福井、勝山、大野、今庄で平年より高く、その他の地点では平年並となった。降水量は、三国、春江、越廼で平年よりかなり少なく、福井、美山、勝山、武生、今庄では平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、三国で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

## 6月

高気圧に覆われ、晴れた日もあったが、梅雨前線や低気圧の影響で雨や曇りの日が多く、大雨となった日もあった。また、北陸地方は6月11日ごろに梅雨入りした。

平均気温は、全ての地点で平年よりかなり高くなった。

降水量は、三国、春江、越廼、福井、美山、勝山、武生で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、福井で平年よりかなり多く、大野では平年並、その他の地点では平年より多くなった。

## 7月

梅雨前線や低気圧の影響で雨や曇りの日が多く、大雨となった日もあった。中旬は高気圧に覆われ晴れた日もあった。

平均気温は、勝山で平年よりかなり低く、その他の地点では平年より低くなった。

降水量は、越廼、美山、九頭竜、今庄、敦賀、美浜で平年よりかなり多く、その他の地点では平年より多くなった。

日照時間は、全ての地点で平年よりかなり少なくなった。

## 8月

高気圧に覆われて晴れた日が多くなり気温も高く猛暑日や熱帯夜となった日もあったが、上旬、中旬には大雨となった日もあった。また、北陸地方は8月1日ごろに梅雨明けした。

平均気温は、春江、越廼、福井、敦賀で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなった。

降水量は、今庄で平年よりかなり少なく、福井、美山、勝山では平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、越廼、今庄で平年並、その他の地点では平年より多くなった。

## 9月

高気圧に覆われ晴れた日もあったが、台風第9号、台風第10号や低気圧及び前線、寒気、湿った空気の影響により、雨や曇りで雷を伴い大雨となった日もあった。



平均気温は、三国で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなった。

降水量は、大飯で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、越廼、今庄、美浜、小浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となった。

#### 10月

上旬と下旬は低気圧や湿った空気の影響により、雨や曇りの日が多くなったが、中旬は高気圧に覆われ晴れた日が多くなった。

平均気温は、三国で平年並、その他の地点では平年より低くなった。

降水量は、美山、勝山、大野、九頭竜、今庄、敦賀で平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、三国、福井、敦賀で平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

#### 11月

上旬、下旬は西高東低の気圧配置となった影響により、雨や曇りの日が多くなったが、中旬は高気圧に覆われ晴れた日が多くなり、夏日を観測した所もあった。

平均気温は、全ての地点で平年より高くなった。

降水量は、小浜で平年より多く、敦賀、美浜で平年並、その他の地点では平年より少なくなった。

日照時間は、越廼で平年並、今庄、小浜では平年より多く、その他の地点では平年よりかなり多くなった。

#### 12月

冬型の気圧配置や気圧の谷および寒気の影響により、上旬は雨や曇りとなった日が多くなったが、中旬以降は雪やみぞれまたは雨の日が多くなった。

平均気温は、美浜、小浜で平年より低く、その他の地点では平年並となった。

降水量は、九頭竜で平年より少なく、敦賀、美浜では平年よりかなり多く、三国、福井、美山、大野、小浜では平年より多く、その他の地点では平年並となった。

日照時間は、敦賀、美浜、小浜で平年より多く、その他の地点では平年並となった。

## 第3章 防災訓練の実施状況

### I 総合防災訓練

令和2年度福井県総合防災訓練を次のとおり実施した。

#### 1 目的

- ・災害対策基本法および福井県地域防災計画に基づき、防災関係機関が協力して迅速・的確に応急対策が実施できるよう、訓練会場の特色を活かした実践的な防災訓練を行い、併せて住民の防災に対する意識の高揚を図ることを目的に実施した。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、敦賀市栗野スポーツセンターを主会場に、会場を分散して総合防災訓練を実施した。
- ・大規模複合災害への着実な対応として、実動部隊による現地を活用した実践的な訓練、避難所での新型コロナウイルス感染症対策およびSNSを活用した避難者の受付、防災関係機関によるライフライン復旧訓練、外国人避難者への避難支援、また、敦賀市において住民避難・誘導訓練を実施した。

#### 2 日時、場所

令和2年11月14日（土）7時30分～12時00分

- 主訓練会場 栗野スポーツセンター（敦賀市長谷地係）
- サテライト会場 黒河小学校（敦賀市御名地係）  
きらめきみなと館（敦賀市桜町地係）  
敦賀新港（敦賀市金ヶ崎町地係） など

#### 3 主催

福井県、敦賀市

#### 4 想定

嶺南東部における大雨および地震による複合災害

#### 5 参加機関 90機関（約600人）

##### （1）国の行政機関

中部管区警察局福井県情報通信部、東京管区気象台福井地方気象台、北陸総合通信局、

国土地理院北陸地方測量部、近畿地方整備局、近畿地方整備局福井河川国道事務所、中部運輸局福井運輸支局、第八管区海上保安本部警備救難部、第八管区海上保安本部敦賀海上保安部、第八管区海上保安部美保航空基地

**(2) 自衛隊**

自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、航空自衛隊第6航空団、航空自衛隊小松救難隊、海上自衛隊第23航空隊

**(3) 警察関係**

福井県警察本部、敦賀警察署、各市防犯隊

**(4) 消防関係**

福井県消防長会、敦賀美方消防組合消防本部、福井市消防局、嶺北消防組合消防本部、永平寺町消防本部、大野市消防本部、勝山市消防本部、鯖江・丹生消防組合消防本部、南越消防組合消防本部、若狭消防組合消防本部、敦賀消防団、自主防災組織、(公財)福井県消防協会

**(5) 医療関係**

(一社)福井県医師会、(一社)敦賀市医師会、(一社)大野市医師会、(公社)福井県看護協会、日本赤十字社福井県支部、福井県赤十字血液センター、福井県無線赤十字奉仕団、赤十字飛行隊福井支隊、福井県立病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井大学医学部付属病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、市立敦賀病院、福井総合病院

**(6) 交通運輸関係**

福井県倉庫協会、(一社)福井県トラック協会、日本通運(株)福井支店、全日本高速道路レッカー事業協同組合北陸支部、新日本海フェリー(株)、(一社)福井県タクシー協会、中日本高速道路(株)金沢支社、西日本高速道路(株)関西支社

**(7) ライフライン関係**

北陸電力(株)福井支店、北陸電力送配電(株)福井支社、(一財)北陸電気保安協会福井支店、(一社)敦賀建設業協会、(一社)福井県LPガス協会、福井県高圧ガス地域防災協議会、(一社)日本コミュニティーガス協会近畿支部福井県防災会、福井県石油業協同組合、関西電力(株)原子力事業本部、日本原子力発電(株)、(独)日本原子力研究開発機構

**(8) 各種団体**

北陸地方非常通信協議会、敦賀市管工事協同組合、福井県災害ボランティアセンター連

絡会、敦賀市災害ボランティアセンター連絡会、敦賀市社会福祉協議会、福井県ドローン協会、敦賀FM放送(株)、日本アマチュア無線連盟敦賀クラブ、日産プリンス福井販売(株)、福井日産自動車(株)、福井三菱自動車販売(株)、(公財)福井県国際交流協会、福井県防災士会、敦賀市防災士会

## (9) 地元地区関係

敦賀市

## 6 主な訓練項目

### (1) 実働機関による実践的な訓練

- ・大型旅客船事故に係る救出救助およびDMAT隊によるトリアージ
- ・土砂災害に巻き込まれた車両からの救助
- ・倒壊した建物からの救助

### (2) 避難所運営訓練

- ・避難所での新型コロナウイルス感染症対策
- ・LINEによる避難所受付

### (3) ライフライン復旧訓練

- ・避難所への電気自動車による給電
- ・停電時の電力復旧対応
- ・地震による断水の復旧対応

<訓練項目図>

時間	08:30	09:00	09:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00		
① 粟野地区 (粟野スポーツセンター等)	避難所設営訓練 8:00~9:00	避難所運営訓練(コロナ対策、LINE実証実験等)9:10~11:00 県防災ネットを用いた外国人避難訓練	避難先変更 移動訓練	ドローン 映像伝達	自主防 救助訓練 10:10~10:40	山岳検索 救助訓練 11:05~11:20	救助活動連携訓練9:50~11:20 (消防、警察、自衛隊、美浜レスキューセンター)	電気自動車からの給電訓練9:00~11:00	道路啓開訓練 10:40~11:20	閉会式 11:30~12:00
② 敦賀新港				大型旅客事故に係る巡視船による救助訓練 9:45~11:00	DMAT隊によるトリアージ訓練 10:30~12:40				閉会 (閉会挨拶: 海上保安本部 警備救難部長) 12:40~12:50	
③ 古田川公園				ドローン 映像伝達	土のう積み・排水訓練 10:00~10:50	中州救 助訓練 11:00~11:15			閉会 (閉会挨拶: 敦賀市土木部長) 11:15~11:25	
④ 黒河小学校	避難所設営訓練 8:30~9:20	避難所運営訓練(コロナ対策、LINE実証実験等) 9:20~10:55		電気自動車からの 給電訓練 9:40~10:30	救出 救助 訓練 10:50~11:05	閉会 (敦賀市) 11:05~ 11:10				
⑤ 愛発公民館			奥麻生→愛発	孤立集落から救助 拠点への搬送訓練 10:10~10:30						
⑥ 敦賀きらめき みなと館				空輸搬送訓練 10:00~10:30	陸路搬送訓練 10:35~11:20					

(2) 住民避難訓練・支援訓練

- ・ 敦賀市民 約100名が住民避難訓練に参加
- ・ 粟野スポーツセンターおよび黒河小学校で住民避難および避難所運営訓練を実施
- ・ 外国人の避難・情報伝達訓練
- ・ 陸路・空路による物資輸送(物資集積拠点→避難所へのラストマイル訓練)

## Ⅱ 原子力防災訓練

### 1 目 的

福井県原子力防災計画および福井県広域避難計画要綱に基づき、国、県、関係市町、防災関係機関および地域住民が一体となった原子力総合防災訓練を実施し、国、地方公共団体、原子力事業者、関係機関における初動対応の確立、防災体制の確認、住民避難体制や緊急時医療措置等の災害対策の習熟、原子力災害対策に係る要員の技能の習熟および原子力防災に関する住民理解の促進を図ることを目的とする。

### 2 実施日

令和2年8月27日（木） 8：30～16：00

### 3 対象発電所 関西電力（株） 大飯発電所、高浜発電所

### 4 場所

おおい町、高浜町、小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市等の訓練実施市町

### 5 訓練参加数

（機 関）

約40機関 約300人

（住 民）

約50人

### 6 参加・協力機関（順不同）

（1）指定行政機関

内閣府、原子力規制委員会

（2）指定地方行政機関

陸上自衛隊第14普通科連隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、航空自衛隊第6航空団、敦賀海上保安部

（3）指定公共機関

日本原子力研究開発機構

（4）自治体関係

福井県、兵庫県、関西広域連合、おおい町、高浜町、小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、姫路市

（5）警察関係

福井県警察本部、小浜警察署

- (6) 消防関係  
若狭消防組合消防本部
- (7) 医療機関関係  
(公社)福井県診療放射線技師会
- (8) 交通運輸関係  
(公社)福井県バス協会、バス事業者、トラック事業者
- (9) その他  
(株)NTTドコモ北陸支社
- (10) 原子力事業者関係  
関西電力(株)、日本原子力発電(株) 等

## 7 訓練想定

福井県内で新型コロナウイルスの感染症が発生している中、大飯発電所3号機ならびに高浜4号機において、若狭湾沖を震源とした地震による外部電源喪失後、原子炉冷却材の漏えいが発生し、非常用炉心冷却装置が作動。さらに、ディーゼル発電機等の故障により非常用炉心冷却装置による注水不能により全面緊急事態となる。

## 8 訓練項目

### (1) 緊急時通信連絡訓練

- ア 発電所から事故状況の通報連絡
- イ 国から県および関西広域連合、関係市町への通報連絡、避難指示等の伝達
- ウ 県、関係市町から自衛隊、海上保安庁、警察、消防、その他関係機関への通報連絡
- エ 事故発生から応急処理、復旧までの通信伝達、收受等
- オ 携帯型映像伝送装置等を利用した画像伝送

### (2) 災害対策本部等運営訓練

- ア 福井県庁、各市町庁舎、福井県大飯原子力防災センターに災害対策本部等の設置・運営、情報収集・連絡体制を構築
- イ 災害対策本部等による住民に対する情報提供の実施  
(防災行政無線屋外拡声器、個別受信機等による地域住民・立入者等への広報)
- ウ テレビ会議システム等を活用し災害対策本部と現地災害対策本部との対策会議等の実施

### (3) 原子力防災センター運営訓練

- ア 福井県大飯原子力防災センターおよび高浜原子力防災センターへの要員派遣
- イ 現地事故対策連絡会議、原子力災害合同対策協議会の開催(実施方針の決定等)

- ウ 各機能班の活動
- エ 県および市町現地災害対策本部等と各機能班との連携
- オ 住民等の避難状況の確認
- カ 実施方針に基づいた応急対策（避難先等の決定、避難手段の確保など）

#### （4）住民避難訓練

- ア 避難先施設への避難（避難経路、避難時間の検証）
- イ 自衛隊車両、民間バスによる住民等の陸路からの避難
- ウ 新型コロナウイルス感染症対策の防護措置の確認

#### （5）一時集合施設開設運営訓練

- ア 一時集合施設の設置運営
- イ 避難者受入マニュアルに基づく受入訓練の実施
- ウ 避難元、避難先自治体における情報伝達の確認
- エ 家屋倒壊により屋内退避できない住民による一時集合施設への退避
- オ 避難者の受付
- カ 避難者の健康状態の確認
- キ 飲料水・飲食物の供給
- ク 新型コロナウイルス感染症対策の防護措置の確認

#### （6）避難所開設運営訓練

- ア 避難所の設置運営
- イ 避難者受入マニュアルに基づく受入訓練の実施
- ウ 避難元、避難先自治体における情報伝達の確認
- エ 避難者の受付
- オ 避難先施設における避難者への健康状態の確認
- キ 新型コロナウイルス感染症対策の防護措置の確認
- ク 車中泊スペースの確保

#### （7）原子力災害医療措置訓練

- ア 避難退域時検査および簡易除染講習の実施

#### （8）緊急時モニタリング訓練

- ア 緊急時モニタリングセンター等の設置・運営
- イ 緊急時モニタリング実施計画、緊急時モニタリング指示書の作成
- ウ 固定観測局および電子線量計観測局を活用したUPZ圏内の線量率の測定
- エ モニタリングカー、サーベイメータを活用した避難範囲の特定のための線量率の測定
- オ 「緊急時モニタリング情報共有システム（ラミセス）」を活用した関係機関との情報共有
- カ 固定観測局等のバックアップとしての可搬型モニタリングポストの設置および測定
- キ 環境試料の採取、受入



- ク 福井県モニタリング本部（大飯原子力防災センター）の設置・運営および後方支援
- ケ 原子力事業者間の相互応援による職員派遣および資機材の提供
- コ モニタリング要員被ばく管理および資機材等の汚染管理

(9) 自衛隊災害派遣運用訓練

- ア 福井県大飯原子力防災センターへの連絡要員の派遣

(10) 物資輸送訓練

- ア 保管施設の開錠・施錠の手順確認
- イ 保管場所から避難場所までの物資輸送（ルートの確認）

Ⅲ 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況

種別	年度	平成27	28	29	30	令和元	2
総合防災訓練	日時	平成27年8月30日(日)	平成28年10月30日(日)	平成29年8月27日(日)	平成30年11月9日(金)	令和元年11月1日(金)、2日(土)	令和2年11月14日(土)
	場所	小浜漁港、小浜市一円、県立大 学小浜キャンパス	北潟湖畔公園	南越前町日野川河川敷	テクノポート福井、永平寺河川公 園	中部縦貫道、真名川憩いの島	栗野スポーツセンター
	主催	福井県、小浜市	福井県、あわら市	福井県、南越前町、越前市	福井県、福井市、あわら市、坂井 市、永平寺町	消防庁 福井県 福井県消防長会 緊急消 防援助隊中部ブロック訓練実行委員会	福井県、敦賀市
	参加機関	85	93	107	210	170	90
訓練種目	48	44	41	92	75	45	
想定	大雨による土砂災害および津波 災害	大雨および地震・津波による災害	大雨と地震による災害	大雨と地震による災害	大雨と地震による災害	奥越地域における大雨および地 震による複合災害	大雨と地震による災害
参加人員	4,100	5,300	3,000	6,000	2,000	700	
石油 コンビ ナート 等	日時	平成27年8月9日(日)			平成30年11月10日(土)		
	場所	福井臨海地区石油コンビナート等特別防 災区域およびその周辺海域			福井臨海地区石油コンビナート等特別防 災区域およびその周辺海域		
	主催	福井県石油コンビナート等防災 本部			福井県石油コンビナート等防災 本部		
	参加機関	30	未開催	未開催	30	未開催	未開催
	訓練種目	28			9		
	想定	地震による原油漏えい、防油堤一部破損 および余震によるタンク火災			地震による原油漏えい、防油堤一部破損 および余震によるタンク火災		
参加人員	451			100			
原 子 力 防 災 訓 練	日時	平成27年10月16日(金) ※平成27年度は個別訓練	平成28年8月27日(土)、28日 (日)		平成30年8月25日(土)、26日 (日)	令和元年8月30日(金)、31日 (土)	令和2年8月27日(木)
	訓練 対象施設	関西電力(株)高浜発電所	関西電力(株) 高浜発電所、大飯発電所		関西電力(株) 大飯発電所、高浜発電所	関西電力(株) 美浜発電所	関西電力(株) 大飯発電所、高浜発電所
	主催	福井県	福井県		国	福井県	福井県
	参加機関		高浜:150 大飯:100	未開催	191	100	40
	訓練種目	①最初動対応訓練 86機関、442名参加 ②安定ヨウ素剤緊急時配布訓練 13機関、84名参加 ③スクリーニング・除染訓練 6機関、71名参加 ④緊急時モニタリング訓練 6機関、84名参加	13		13	13	10
	想定	全交流電源喪失および原子炉冷 却機能の喪失により、全面緊急 事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷 却機能の喪失により、全面緊急 事態に至り、放射性物質放出		全交流電源喪失および原子炉冷 却機能の喪失により、全面緊急 事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷 却機能の喪失により、全面緊急 事態に至り、放射性物質放出	全交流電源喪失および原子炉冷 却機能の喪失により、全面緊急 事態に至り、放射性物質放出
	参加人員		5,546		7,457	8,988	約50

#### IV 市町別自主防災組織の結成状況

令和3年4月1日現在

	管内世帯数 (A)	自主防災組織 の組織数	隊員数	組織されている 地域の世帯数 (B)	組織率 (カバー率) (B/A)
福 井 市	105,347	1,146	75,737	103,331	98.1%
敦 賀 市	29,010	89	2,225	26,193	90.3%
小 浜 市	11,821	109	1,296	8,849	74.9%
大 野 市	11,748	206	6,025	11,232	95.6%
勝 山 市	7,140	118	1,249	5,440	76.2%
鯖 江 市	25,168	152	4,408	25,104	99.7%
あ わ ら 市	10,234	109	4,556	9,648	94.3%
越 前 市	30,829	239	9,520	30,621	99.3%
坂 井 市	32,475	322	4,425	23,460	72.2%
永 平 寺 町	6,147	89	3,621	6,147	100.0%
池 田 町	918	19	137	710	77.3%
南 越 前 町	3,424	71	1,072	3,348	97.8%
越 前 町	7,255	64	1,520	5,821	80.2%
美 浜 町	3,666	19	6,467	2,270	61.9%
高 浜 町	4,334	40	611	2,799	64.6%
お お い 町	3,266	38	2,086	2,086	63.9%
若 狭 町	4,993	90	1,323	4,723	94.6%
合計・ 平均	297,775	2,920	126,278	271,782	91.3%

管内世帯数：住民基本台帳法に基づく人口、世帯数調べ（令和3年4月1日現在）

隊 員 数：自主防災組織の組織編成において隊員または班員等に位置づけられている実働隊員の総数（令和3年4月1日現在）

## 第4章 防災行政無線利用状況

### 1 無線局の現況

防災行政無線局等一覧（令和3年4月1日現在）

〔固定系〕

区分	局数		設置場所	
	多重系	衛星系		
統制局	1	1	県庁	
中継局	7		越知山（越前町大谷寺） 久須夜ヶ岳（小浜市堅海） 村国山（越前市村国） 八ツ杉（越前市別印） 勝山（勝山市滝波町） 岳山（美浜町早瀬） 青葉山（高浜町中山）	
支部局	7	7	7 土木（福井、三国、奥越、丹南、鯖江丹生、敦賀、小浜）	
合庁局	1	1	1 合同庁舎（福井）	
ダム管等局	12		原子力センター 龍ヶ鼻ダム管※、龍ヶ鼻ダム下流連絡所※、永平寺堰堤※ 笹生川ダム管、笹生川堰堤※、浄土寺川堰堤※ 広野ダム管、広野堰堤※、榊谷堰堤※ 大津呂堰堤※、河内川堰堤※ ※水防無線局を含む	
小計	28	9		
端末局	県出先機関		13	健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭）、 県立病院、福井港湾、敦賀港湾、 衛生環境センター、防災航空事務所※ 坂井上水、日野川上水 ※福井空港は、併設局（防災航空隊）と共用
	市町		17	9 市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井 8 町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
	消防本部		7	7 消防本部 福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、南越、若狭 ※鯖江丹生消防・敦賀美方消防は併設局（鯖江市・敦賀市）と共用
	国・公共機関等		19	福井气象台、鯖江自衛隊、舞鶴自衛隊、敦賀海保、福井海保 日赤福井、福井県医師会、福井火力、福井石油備蓄、原電敦賀 関電美浜・高浜・大飯、ふげん、もんじゅ オフサイトセンター（敦賀、美浜、大飯、高浜）
	小計		56	
衛星車載局		1		
可搬型地球局		3		
合計	28	69		

[移動系]

区 分		局 数	設 置 場 所	
陸 上 基 地 局	全 県 移 動 260MHzデジタル	11	県庁統制局 中継局（越知山、久須夜ヶ岳、陣ヶ岡、村国山、岳山、青葉山、 八ツ杉、勝山） 土木事務所（敦賀） 笹生川ダム管	
	F W A (18GHz)	1	坂井合同庁舎	
	400MHz防災相互	1	防災航空事務所	
	計	13		
航 空 局		6	防災航空事務所（可搬用含む）	
陸 上 移 動 局	全県移動局 260MHzデジタル	車載型	47	県庁 3台 土木事務所 42台（福井6台、三国6台、奥越7台、丹南7台、鯖江丹生6台、 敦賀4台、小浜6台） 防災航空事務所、衛星車載局
		半固定型	39	県出先機関 8台：健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭） 県立病院、防災航空事務所
				9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井
				8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
				9消防本部：福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、鯖江丹生、南越、敦賀美方、若狭
		5防災関係機関：福井駅、NHK福井、福井放送、福井テレビ、FM福井		
		携帯型	70	県庁 30台、敦賀土木 20台、小浜土木 20台
	携帯型(他機関)	44	原子力センター 3台、地域医療課 41台	
	小 計	200		
	F W A (18GHz)	1	陣ヶ岡中継局	
	消 防 移 動 局	車載型	1	防災航空事務所
携帯型		8	県庁 1台、防災航空事務所 7台	
小 計		9		
防 災 移 動 局	携帯型	5	防災航空事務所、400MHz 防災相互	
計		215		
携 帯 局(ヘリ用)		消防用	2	防災ヘリコプター
航 空 機 局		航行運航用	1	
簡 易 無 線 局			2	簡易画像伝送装置（衛星車載局に搭載）
ヘ リ サ ツ ト 局	携帯基地地球局	固定型	1	県庁局
	ヘリコプター局	ヘリ搭載型	1	防災ヘリコプター
	計		2	
合 計			241	

## 2 利用状況

### (1) 一般通話の利用状況

令和2年中

区 分	一年間の総計	一カ月当たりの 平均使用回数	一局当たりの 月平均使用回数
支 部 ・ 合 庁 局	322,204	26,850	(9局) 2,983
ダ ム 管 等 局	10,963	914	(11局) 83
県 出 先 機 関	8,519	710	(14局) 51
市 町	738	62	(17局) 3.6
消 防 本 部	290	24	(9局) 2.7
国 出 先 機 関	65	5.4	(5局) 1.1
公 共 機 関	61	5.1	(9局) 0.6
原 子 力 発 電 所 等	80	6.7	(10局) 0.7
合 計	342,920	28,577	(84局) 340

### (2) 一斉指令の利用状況

[指令内容別]

令和2年中

区 分	気 象 関 係				事務連絡	テスト	合 計
	警 報	注意報	情 報	計			
指 令 回 数	200	1,725	761	2,686	727	26	3,439
前年比 (%)	238	112	105	115	279	65	130

[指令種類別]

令和2年中

区 分	全 県	県出先	市 町	消 防	その他	合 計
指 令 回 数	3,198	55	189	146	0	3,588
前年比 (%)	133	102	103	91	—	128

## (3)一斉指令月別通信回数

区分	月												計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
内容	気警報	4	0	4	0	34	100	20	26	2	0	10	200	
	象注意報	174	132	170	175	93	120	132	186	144	134	165	1,725	
	関係情報	92	83	110	45	19	69	118	52	75	8	12	78	761
別	係小計	270	215	284	220	203	338	204	287	154	146	253	2,686	
	事務連絡	14	8	79	71	56	90	60	72	43	53	124	727	
種別	テラスト	3	3	1	0	6	5	0	0	1	4	3	26	
	計	287	226	364	291	168	433	264	359	198	203	380	3,439	
種類別	全県	271	215	340	291	160	389	242	326	190	190	357	3,198	
	県出先	8	4	0	1	3	0	5	2	2	9	7	55	
	市町	8	7	15	11	3	30	42	17	28	6	4	18	189
	消防	6	8	4	2	1	24	39	17	28	2	2	13	146
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	293	234	359	305	167	295	470	281	384	200	205	395	3,588	

備考:市町と消防へ一括して一斉指令した場合は、市町と消防の種類別において、それぞれ回数を計上

3 多重局通信用回数集計表

令和2年中

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福井支部	2,398	2,739	3,245	3,459	2,454	2,992	2,780	2,471	2,575	2,750	2,354	2,433	32,650
三国支部・坂井合庁	2,682	2,785	3,340	3,650	2,791	3,620	3,125	2,903	3,025	3,288	2,732	2,775	36,716
奥越支部・奥越合庁	2,405	2,539	3,398	3,533	2,929	3,307	3,364	2,424	2,483	3,058	2,510	2,558	34,508
勝山中継局(注1)	695	731	797	275	217	382	517	346	367	387	369	306	5,389
丹南支部・南越合庁	3,541	4,001	5,204	5,335	4,501	5,245	5,013	3,812	4,278	4,609	3,915	3,762	53,216
鯖江丹生支部	1,464	1,333	1,730	2,399	1,513	2,019	1,737	1,450	1,487	1,654	1,470	1,382	19,638
敦賀支部・敦賀合庁	2,968	3,182	3,849	3,380	2,832	4,027	3,531	2,930	3,196	3,527	3,128	3,218	39,768
小浜支部・若狭合庁	4,375	4,588	5,900	5,704	4,397	5,505	5,085	4,055	4,511	4,712	4,320	4,469	57,621
福井合庁	3,118	3,088	4,215	3,885	3,154	3,593	3,489	2,855	3,127	3,544	2,733	2,893	39,694
丹生合庁	721	988	1,295 (廃局)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,004
原子力センター	464	574	522	484	399	458	530	475	342	475	436	385	5,544
笹生川ダム管	125	132	173	188	155	111	236	76	103	176	121	188	1,784
笹生川堰堤	0	0	3	8	15	9	24	23	5	15	28	1	131
浄土寺川堰堤	0	0	0	2	11	20	2	14	12	13	7	0	81
広野ダム管	149	139	189	135	159	200	330	133	212	183	131	161	2,121
広野堰堤	2	2	5	7	13	11	12	4	9	6	13	15	99
杵谷堰堤	4	1	4	5	8	6	3	9	0	10	8	15	73
龍ヶ鼻ダム管	53	67	67	35	65	166	147	114	106	71	75	96	1,062
永平寺堰堤	4	2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	10
大津呂ダム管	0	0	0	18	0	9	6	0	1	0	5	0	39
河内川堰堤	0	0	0	1	1	9	1	1	0	0	6	0	19
計	25,168	26,891	33,936	32,503	25,614	31,693	29,932	24,095	25,839	28,478	24,361	24,657	333,167

(注1) 恐竜博物館への通信を含む

※土木事務所(支部局)と合同庁舎が隣接している局については、合算している。



4 端末局無線通信回数調

令和2年中

無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数
福 井 市	66	福 井 消 防	21	福 井 気 象 台	44
敦 賀 市	75	大 野 消 防	24	鯖 江 自 衛 隊	7
小 浜 市	27	勝 山 消 防	40	舞 鶴 自 衛 隊	2
大 野 市	30	永 平 寺 消 防	33	敦 賀 海 保	6
勝 山 市	71	嶺 北 消 防	49	福 井 海 保	6
鯖 江 市	60	鯖江丹生消防	66	国 出 先 計	65
あ わ ら 市	25	南 越 消 防	16	福 井 駅	7
越 前 市	46	敦賀美方消防	21	N H K 福 井	4
坂 井 市	53	若 狭 消 防	20	福 井 テ レ ビ	5
市 計	453	消 防 計	290	福 井 放 送	5
永 平 寺 町	39	福 井 保 健	42	F M 福 井	5
池 田 町	25	若 狭 保 健	118	日 赤 福 井	2
南 越 前 町	26	二 州 保 健	169	福 井 県 医 師 会	6
越 前 町	40	丹 南 保 健	1,419	福 井 火 力	6
美 浜 町	59	坂 井 保 健	63	福 井 備 蓄	21
若 狭 町	22	奥 越 保 健	82	公 共 機 関 計	61
お お い 町	44	武 生 保 健	6	原 電 敦 賀	8
高 浜 町	30	衛 生 環 境 セ ン タ ー	2,522	関 電 美 浜	12
町 計	285	県 立 病 院	376	関 電 大 飯	6
市 町 計	738	防 災 航 空 隊	54	関 電 高 浜	6
		福 井 港 湾	295	原 子 力 機 構 ふ げ ん	6
		敦 賀 港 湾	2,503	原 子 力 機 構 も ん じ ゅ	10
		福 井 空 港	22	敦 賀 オ フ サ イ ト	6
		坂 井 上 水	217	美 浜 オ フ サ イ ト	7
		日 野 川 上 水	631	大 飯 オ フ サ イ ト	12
		県 出 先 計	8,519	高 浜 オ フ サ イ ト	7
				原 子 力 発 電 所 等 計	80
				合 計	9,753

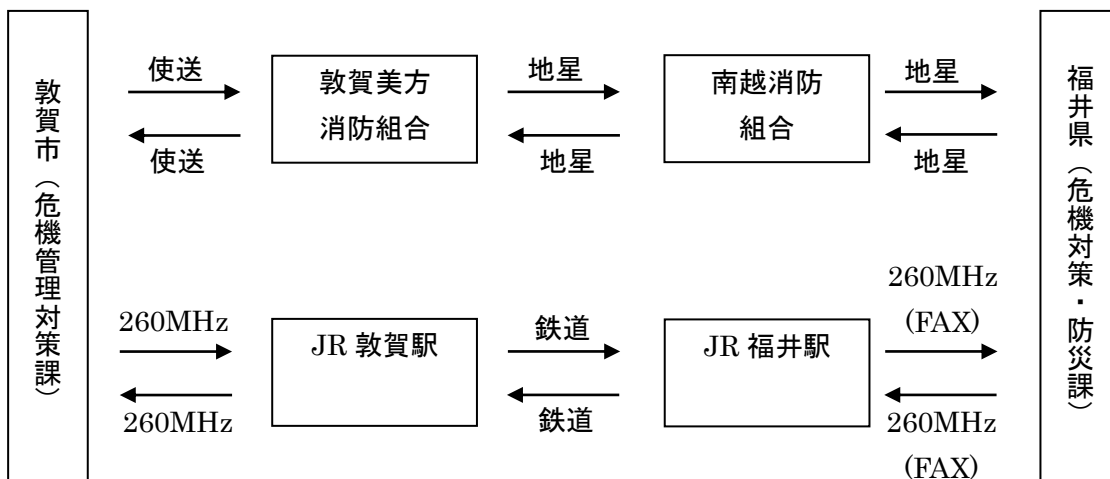
※衛星回線による、端末局同士の通信回数はカウントされていない

※武生保健は令和2年3月末に廃局となった

5 非常通信訓練実施状況

(1) 令和2年度福井県総合防災訓練における非常通信訓練（令和2年11月14日）

- ・ 敦賀市役所から福井県あて往復信（消防・鉄道ルートを使用）
- ・ 県の260MHz帯デジタル無線機を敦賀市役所およびJR敦賀駅に貸出し、敦賀市役所～JR敦賀駅で非常通信訓練を実施

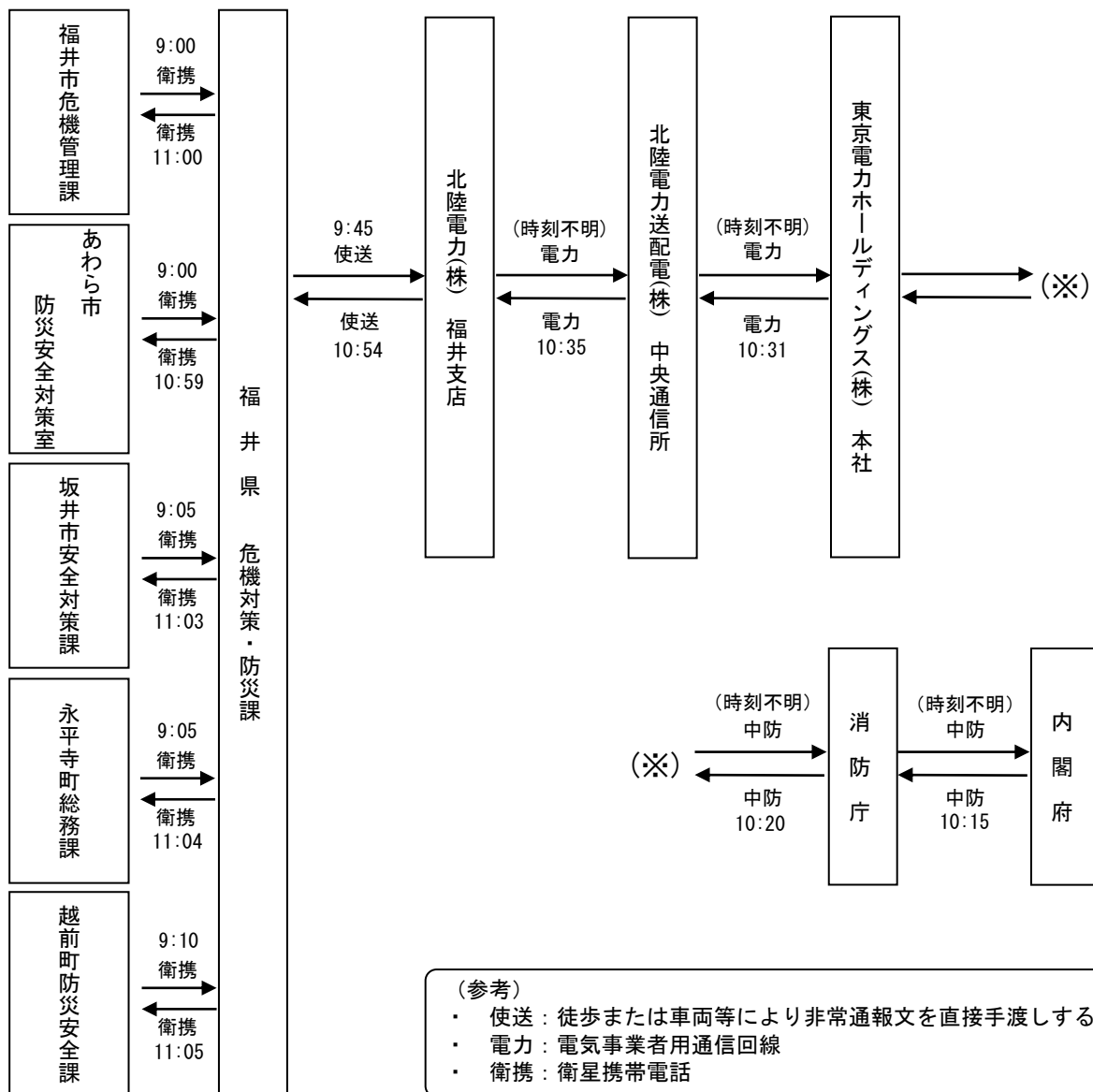


(参考)

- ・ 260MHz：260MHz帯デジタル無線
- ・ 鉄道：鉄道会社用通信回線
- ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク

(2) 令和2年度 第83回全国非常通信訓練 (令和2年11月11日)

- ・ 嶺北北部地方の各市町から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信。市町～県庁間は衛星携帯電話 (ワイドスターII)、県庁～内閣府間は電力ルートを使用。

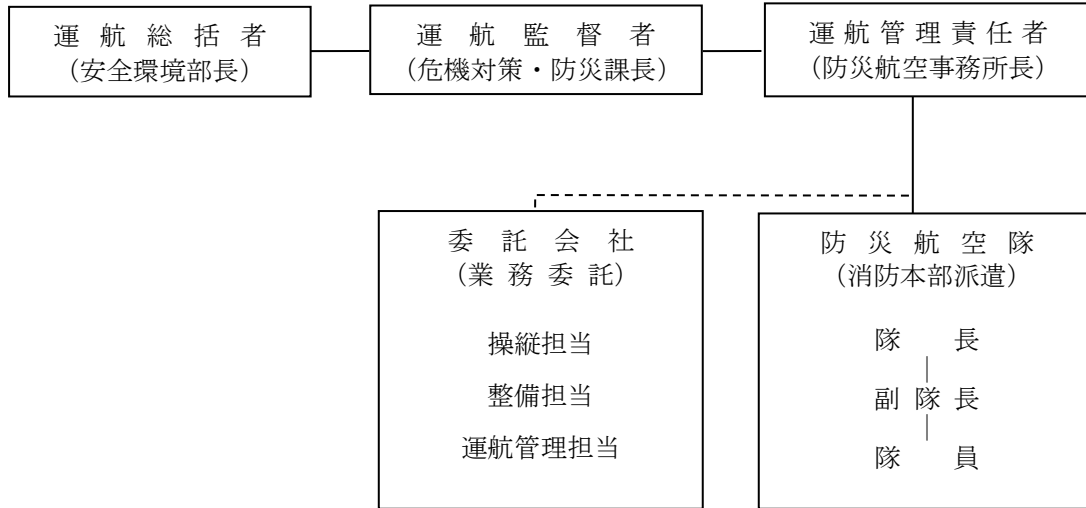


## 第5章 防災ヘリコプターの運航体制

### 1 運航基地

福井県防災航空事務所（福井空港内）

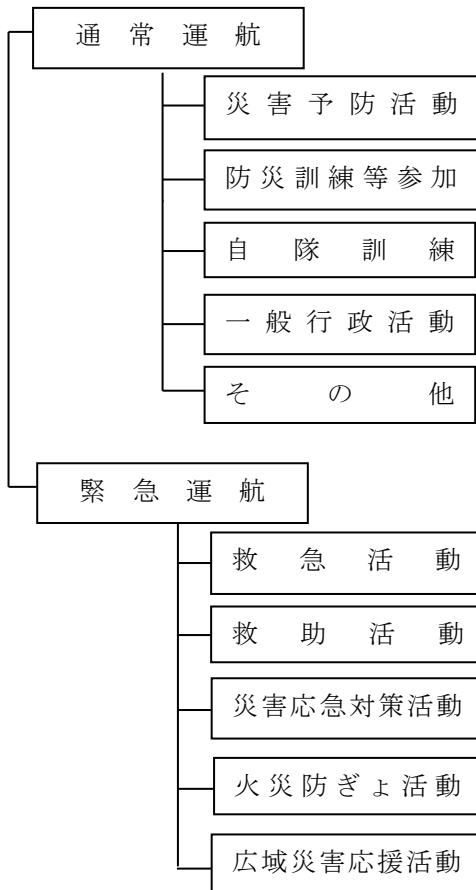
### 2 組織図



### 3 運航時間

毎日、午前8時30分から午後5時15分まで  
 （ただし、緊急運航の場合は日の出から日没まで）

### 4 活動業務



機種	川崎BK117C-2
メーカー（製造国）	川崎重工業（日本）
エンジン最大出力	1,384SHP
エンジン基数	2基
搭乗人員	11人
最大全備重量	3,585kg
最大搭載可能重量	1,715kg
航続距離	685km
ホイスト装置	270kg
貨物吊り下げ装置	1,500kg
全長	13.03m
全高	3.95m
最大速度	278km/h
航続時間	約3.5h
着陸方式	スキッド式

第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）

令和3年3月31日現在

区分	緊急運航						通常運航						合計
	救急	救助	災害応急	火災防衛	広域災害応援	計	自隊訓練	防災訓練参加	災害予防活動 危険箇所調査	災害予防活動 災害予防広報	一般行政	整備	
平成22年度	件数 22 時間 9:31	26 19:26			15 21:26	63 50:23	128 162:56	40 30:53	4 10:24	3 4:57	4 7:21	3 2:46	245 269:40
平成23年度	件数 25 時間 10:01	26 10:46	4 4:03	1 3:19	6 11:09	62 39:18	125 151:46	39 29:10	4 16:10	4 5:08	3 5:23	4 3:31	241 250:26
平成24年度	件数 25 時間 13:51	24 18:31		1 0:52	11 13:25	61 46:39	162 183:11	39 27:30	3 11:08	1 1:40	5 7:41	5 2:03	276 279:52
平成25年度	件数 29 時間 15:24	23 19:33	9 13:12		12 13:28	73 61:37	158 184:16	33 21:18	3 11:11	1 1:40	5 5:54	4 4:05	277 290:01
平成26年度	件数 28 時間 12:35	29 20:32			12 12:35	69 45:42	139 146:21	33 26:36	1 1:43	4 2:16	8 8:02	8 5:26	265 247:49
平成27年度	件数 36 時間 19:30	36 26:08			6 9:38	78 55:16	162 174:09	40 25:37		2 2:24	6 4:16	3 2:37	291 264:19
平成28年度	件数 37 時間 20:50	31 30:03			10 14:41	78 65:34	142 152:04	40 29:34		2 3:17	9 10:26	2 1:21	273 262:16
平成29年度	件数 28 時間 15:55	40 29:37		1 1:04	14 14:55	83 61:31	152 159:41	27 20:22		1 1:26	7 5:06	3 1:34	273 249:40
平成30年度	件数 21 時間 15:19	18 9:26	1 0:25	1 0:24	21 12:56	62 38:30	176 188:45	32 22:58			8 5:48	4 1:44	282 257:45
令和元年度	件数 25 時間 13:50	36 24:25	2 1:23		28 24:21	91 63:59	167 183:15	25 22:10			11 6:49	4 2:23	298 278:36
令和2年度	件数 35 時間 16:26	42 23:20	1 1:07	2 1:50	8 8:50	88 51:33	155 179:38	37 31:29			19 9:31	1 0:51	300 273:02

※年間の飛行時間は300時間が限度であるが、耐空検査を年度中に実施しているため、年度合計は300時間を超える場合がある

## 第6章 衛星車載局の運用体制

### 1 収 容

福井県消防学校内

### 2 運用組織図

使用管理者 (危機対策・防災課長)	運用統括責任者：運用総括業務	1名
	通信機器操作員：通信機器類の操作、調整 県庁統制局の操作、調整	2名 1名
	情報収集伝達員：情報の収集、伝達	2名

### 3 運 用

<非常時の運用>

災害発生もしくは発生する恐れがあるときに、災害の予防、被災後の救助および復旧などの災害対策等に必要な情報の収集・伝達を行う。

<平常時の運用>

業務、事業、イベント等の紹介を行う。

非常時および平常時とも映像情報の伝送を可能としていることにより、より詳細な状況の把握、広報等が可能である。

### 4 主な仕様

<アンテナ装置>

反射鏡部	オフセットパラボラ	有効開口径	1.8m
駆動部	電動/手動		
衛星捕捉	GPS等各種センサーおよび送受信装置受信偏波特性比較機による完全自動衛星捕捉が可能		

<送受信装置>

画像系電力増幅部	飽和最大出力	300W以上 (TWT)
個別通信系電力増幅部	飽和最大出力	40W以上 (SSPA)

<端局装置>

実装チャンネル数	個別最大通信回線用	4CH
	デジタル画像送信用	1CH
	デジタル画像受信用	1CH

デジタル画像変復調部 動 画：6Mbps

<その他端末装置>

全県移動車載型無線装置	260MHz デジタル通信 複信方式
衛星自動車電話	衛星携帯・自動車電話対応
簡易画像伝送装置	50GHz 帯回線構成での画像伝送

# 保 安 編

---





# 第1章 高圧ガス保安

## 概況

高圧ガスは、エネルギー、原料ガスおよび先端技術分野における特殊材料ガスなどに利用されるなど、その活用分野は広範囲である。ただし、高圧ガスは有用な反面、高圧状態であること、さらにガスの種類によって可燃性、支燃性および毒性などの化学的な特性があるため、大規模な事故や災害を巻き起こす危険性がある。

このため、高圧ガス保安法等の関係法令に基づく許可や届出義務などによる危害予防のための規制があるほか、高圧ガス事業者および高圧ガス保安協会による自主的な保安活動を促進するための各種の講習会などを通じた保安指導を実施している。

国内全体での高圧ガスの事故は、平成23年の1083件をピークに減少傾向が続いている（平成30年879件、令和元年701件、令和2年582件）。

なお、内訳で最も多いのが、冷凍設備がある製造事業所での事故（平成30年327件、令和元年297件、令和2年237件）である。

一方、高圧ガスのうち一般消費者等への販売にかかる液化石油ガス事故については、全国で平成18年に219件（前年比+114件）と急激な増加を見せた後は年によって増減の幅はあるものの、おおむね200件前後で推移しており、令和2年は192件（前年比-10件）である。

県は、法令遵守はもとより、講習会、保安検査および立入検査などを定期または随時に実施し、高圧ガス事業者等に対する指導を行なっている。特に、液化石油ガス事業者に対しては、LPガス設備の点検・調査および改善などの法令遵守ならびに事故防止対策の徹底の指導などを通じ、一般消費者等の安全・安心を推進している。

第1表 市町別高圧ガス関係事業所数

令和3年3月31日現在

事業所 区分	製造事業者										販売事業者(店舗数)										貯蔵所			特定消費事業所			保安機関	容器検査所										
	第1種					第2種					計	一般 (LPG 販売を 兼ねて いる者を 含む)	高圧 法の み	液化石油ガス			計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計												
	一般	冷凍		液化 石油 ガス	一般	計	アンモニア 以外	冷凍		計				両方 知事 所管	液石法のみ														計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計
		アンモニア	アンモニア 以外					アンモニア	アンモニア 以外						大臣 所管	知事 所管																						
市町	12	21	1	8	9	42	27	1	6	210	216	244	286	104	22	1	0	6	69	76	522	23	5	28	10	15	25	4	72	4								
福井市	8	5		6	6	19	18		6	55	61	79	98	24	1		1	3	10	14	96	16	5	21	5	4	9		12									
敦賀市	1	1		3	3	5	5			18	18	23	28	8			1	4	6	11	46	4		4	2		2	1	7									
小浜市		2				2	3			24	24	27	29	6			3	3	15	21	34	61	3		3			1	14									
大野市	3	3		2	2	5	2		1	20	21	23	28	1				17	17	20	38	1	1	2	2	2	2	1	13									
勝山市	3	7		1	1	11	12			43	43	55	66	4	1		2	1	24	27	53	7		7	1	7	8	22	1									
鯖江市	3	1		1	1	5	7			41	41	48	53	1				10	10	20	31	2	2	4	2	2	4	1	7									
あわら市	15	3		1	1	19	5		1	98	99	104	123	21	7		2	2	30	34	122	12	3	15	8	6	14		25									
越前市	11	11		6	6	28	14		2	78	80	94	122	7			4	1	46	51	116	18	4	22	5	15	20	48	1									
坂井市	53	54	1	28	29	136	93	1	16	587	603	697	833	176	31	1	13	20	227	261	1116	86	20	106	33	51	84	8	220	6								
市計																																						
永平寺町		1		1	1	2	3			14	14	17	19					4	4	17	21	1		1	1		1	3	1									
池田町										2	2	2	2					2	2	2	4							2										
南越前町	1			6	6	7			2	5	7	7	14					3	3	6	9							3										
越前町	3	3				6	8		3	15	18	26	32	2			1	22	23	18	43	1		1	3	3	3	22										
美浜町				1	1	1	2			5	5	7	8					3	3	6	9	8			1	1	1	2										
高浜町	1				0	1	5		2	3	5	10	11	2				2	2	6	10	17		17	1		1	1	1									
おおい町							1			4	4	5	5				1	4	5	4	9	5		5	1		1	4										
若狭町	1	3		1	1	5	2			22	22	24	29			1		7	8	11	19	1	1	2	1	3	4	8										
町計	5	8	0	9	9	22	21		7	70	77	98	120	4	0	0	1	2	47	50	70	33	1	34	5	6	11	1	45	1								
県計	58	62	1	37	38	158	114	1	23	657	680	795	953	180	31	1	14	22	274	311	749	119	21	140	38	57	95	9	265	7								

第2表 ガスの種類別高圧ガス製造事業所数（冷凍事業所を除く）

令和3年3月31日現在

ガスの種類	第1種製造者（事業所）	第2種製造者（事業所）
空 気	3	38
酸 素	2	15
窒 素	24	47
水 素	1	2
炭 酸 ガ ス	13	6
フ ロ ン ガ ス	1	—
ア ン モ ニ ア	1	—
塩 素	—	—
ア ル ゴ ン	1	4
酸 化 エ チ レ ン	1	—
塩 化 ビ ニ ル	1	—
ヘ リ ウ ム	1	—
プ ロ ビ レ ン	—	—
エ チ レ ン	—	—
天 然 ガ ス	9	2
L P ガ ス	62	1
計	120	115

- 1 第1種製造者とは、1日の処理能力が100 m<sup>3</sup>以上（政令で定める「第一種ガス」にあつては300 m<sup>3</sup>以上）、それ以外のものを第2種製造者という。
- 2 同一事業所で2以上のガスを製造している事業所については、最も処理量が多いガスまたは主たる目的のガスに計上

第3表 処理量別および製造形態別製造事業所数（冷凍事業所を除く）

令和3年3月31日現在

事務所数 処理量区分(m <sup>3</sup> )	空 液 分	気 化 離	L P 工 業 消 費	L P ガ ス ス タ ン ド	L P ガ ス 充 填 所	L N G ガ ス ス タ ン ド	水 素 ス タ ン ド	圧 縮 空 気 充 填 所	C E の 製 造 事 業 所		移 動 式 製 造 事 業 所	其 他	合 計
									充 填 所	消 費			
0 以上～30 未満								6			1 4	2 6	4 6
30～100			1				1	1 1			9	5	2 7
100～1,000								2 3			2 7	8	5 9
1,000～1 万			2			1					1 2	5	2 0
1 万～10 万	4		2 8	2	(※2) 6		1			3		4	5 1
10 万～100 万	1		1 0		(※5) 1 6							3	3 2
100 万～1,000 万	2											1	3
1,000 万～1 億													
1 億以上													
計	7		4 1	2	2 2	1	2	4 0		3	6 2	7	2 3 8

1 同一事業所で2以上の製造形態がある場合は、もっとも処理量の多い製造形態を当該欄に計上した。(ただし、附属冷凍を除く)

2 ※は充填所に併設されているスタンド数

第4表 高圧ガス貯槽数（冷凍事業所を除く）

令和3年3月31日現在

（単位：基）

貯槽の区分 (貯槽能力) ガス名	3トン 以上	10トン 以上	50トン 以上	100トン 以上	計
	10トン 未満	50トン 未満	100トン 未満	1,000トン 未満	
液化酸素	8	11		1	20
液化炭酸ガス	13	1			14
液化アンモニア		5			5
液化水素					
液化塩素					
酸化エチレン		1			1
塩化ビニルモノマー			1	1	2
LPガス		101	9		110
液化窒素	38	33	1	2	74
液化フロン		1			1
液化アルゴン	3	13	4		20
液化天然ガス		13	8		21
計	62	179	23	4	268

第5表 令和2年度高圧ガス製造保安責任者試験実施状況

種 類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数	
				(人) (B)	合格率 (%) (B/A)
乙種化学	全科目受検者	20	17	5	29.4
	科目免除者	2	2	1	100
	計	21	18	6	33.3
乙種機械	全科目受検者	30	24	7	29.2
	科目免除者	5	5	2	40.0
	計	35	29	9	31.0
丙種化学 (液石丙化)	全科目受検者	33	29	6	20.7
	科目免除者	14	14	12	85.7
	計	47	43	18	41.9
丙種化学 (特別丙化)	全科目受検者	44	41	7	17.1
	科目免除者	10	10	8	80.0
	計	54	51	15	29.4
第二種 冷凍機械	全科目受検者	9	8	1	12.5
	科目免除者	1	1	1	100
	計	10	9	2	22.2
第三種 冷凍機械	全科目受検者	53	46	5	10.9
	科目免除者	7	7	5	71.4
	計	60	53	10	18.9
計	全科目受検者	189	165	31	19.0
	科目免除者	38	38	29	76.3
	計	227	203	60	29.5

第6表 令和2年度高圧ガス販売主任者試験実施状況

種 類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人)		合格者数 (人)	
			(A)	(B)	合格率 (%) (B/A)	
第一種販売 主任者	全科目受験者	31	27	10	37.0	
	科目免除者	0	—	—	—	
	計	31	27	10	37.0	
第二種販売 主任者	全科目受験者	34	29	12	41.4	
	科目免除者	14	14	11	78.6	
	計	48	43	23	53.5	
計	全科目受験者	65	56	22	39.2	
	科目免除者	14	14	11	78.5	
	計	79	70	33	47.1	

第7表 令和2年度液化石油ガス設備士試験実施状況

出願者 (人)	受験者 (人) (A)	筆記試験合格者 (人)		技能試験合格者 (人) (C)	合格率 (%) (C/B)
		(B)	筆記試験合格率 (%) (B/A)		
8	7	2	28.5	2	100

第8表 令和2年度高圧ガス関係免状交付状況

免許の 種類	乙種化学	乙種機械	丙種化学 (液石丙化)	丙種化学 (特別丙化)	第二種 冷凍機械	第三種 冷凍機械	第一種 販 売	第二種 販 売
交付数 (件)	7	10	18 (1)	18	2	11	5	27 (2)

( ) 書きは再交付・書換で外数

## 第9表 令和2年度高压ガス関係申請状況

### (1) 高压ガス保安法

申請種別		区分	件数	申請種別		区分	件数
製造	新設	一般	0	完 成 更 改 含 む の 検 査	製造	一般	12
		液石	1			液石	6
		冷凍	0			冷凍	3
		計	1			計	21
	変更	一般	12		貯蔵所	一般	3
		液石	5			液石	1
冷凍		3	計	4			
	計	20	製造保安責任者免状交付		66		
貯蔵所	新設	一般	2	〃 再交付	1		
		液石	1	〃 書換	0		
		計	3	販売主任者免状交付	32		
	変更	一般	5	〃 再交付	2		
		液石	1	〃 書換	0		
		計	6	保安検査		24	
			合計	125			

### (2) 液化石油ガス法

申請種別	件数
販売事業登録	0
保安機関認定	2
保安機関認定更新	4
一般消費者等増加認定	0
販売事業者謄本交付	13
販売事業者認定	0
貯蔵施設等設置	0
充てん設備許可	1
液化石油ガス設備士免状交付	16
〃 再交付	4
〃 書換	9
合計	49



第10表 令和2年度高圧ガス事故発生状況

ガスの種類	事故発生日	事故発生場所	事故の概況	人的被害			原因
				死者	重傷	軽傷	
液化石油ガス	R2.6.29	大野市	住宅跡地の更地で、杭打ち作業中に、埋没していたボンベに穴が開き、ガスが漏洩	0	0	0	杭の打ち込みによる容器の破損
フルオロカーボン	R2.8.28	敦賀市	蒸発器のチューブからガスが漏洩	0	0	0	腐食管理不足

## 第2章 火薬類保安

### 概況

火薬類は、土木、採石、鉱山等の事業に使用されているほか、身近なものではがらん具煙火にいたるまで様々な種類があり、多岐にわたって利用されている。

しかし、その取扱いによっては大事故につながる恐れがあり、製造から消費にいたるまで厳しく規制を行うなど、安全性の確保が強く要求されている。

本県においては、県公安委員会と密接な連携のもとに立入検査による法の厳格かつ適切な運用、さらに、取り扱う者自らによる自主保安体制づくりが、事故予防上重要であることから、危害予防週間を通じ保安意識の啓蒙と普及に努めている。

また、許認可については、県では危機対策・防災課の他、奥越農林総合事務所、嶺南振興局で行っているが、煙火および空包の許可については、平成8年度から県内各市町（消防本部）で行っている。

第1表 火薬類関係事業所等数

令和3年3月31日現在

(単位：件)

販売業者	火薬・爆薬および火工品	7
	競技用紙雷管	28
	合計	35
火薬庫	1級火薬庫	14
	2級	0
	3級	2
	煙火	5
	実包	1
	合計	22
庫外貯蔵所	販売業者所有	10
	その他所有	10
	合計	20

第2表 銃砲関係事業所数

業 種	事業所数
販 売	1
製造（修理・改造のみ）および販売	3
計	4

第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移

(単位：t)

業種 年度	鉱山	石灰石	土木	採(砕)石	その他	合計
平成26	11	4	68	57	0	140
27	15	5	387	68	0	475
28	9	2	508	79	0	598
29	9	3	694	86	1	793
30	12	4	803	152	0	971
令和元	1	0	156	83	0	240
2	1	0	46	159	0	206

第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況

種 別	出願者数(人)	受験者数(人) (A)	合格者(人) (B)	合格率(%) (B/A)
甲 種	50	45	20	44.4
乙 種	8	8	2	25.0
丙 種	0	0	0	—
計	58	53	22	41.5

会場：12月20日（日）福井県自治会館

第5表 令和2年度火薬類保安講習関係講習会実施状況

講習会名	回数(回)	受講者数(人)
火薬類取扱者保安教育講習会	8	421
火薬類取扱者保安再教育講習会	8	26
火薬類取扱保安責任者養成講習会	1	16
煙火消費保安講習会	2	203

## 第6表 令和2年度火薬類許可申請等の状況

### (1) 県許可申請等

区 分	種 別		件 数 (件)
危機対策・防災課	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	2
		上記以外	23
	譲 渡		4
	火薬庫設置		0
	火薬庫変更		0
	火薬庫完成検査(設置)		0
	" (変更)		0
	火薬庫保安検査		10
	免状交付		23
	免状再交付		2
	販売営業		0
	計		64
奥越農林 総合事務所	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	1
		上記以外	23
	譲 渡		12
	計		36
嶺南振興局 企画振興室 若狭	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	1
		上記以外	4
	譲 渡		3
	計		8
嶺南振興局 企画振興室 二州	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	0
		上記以外	8
	譲 渡		4
	計		12
合 計		120	

### (2) 市町許可申請等

消防本部名	区 分	種 別			件 数
		煙火消費	空包譲受	空包譲渡	
福 井 市		9	0	0	9
大 野 市		1	0	0	1
勝 山 市		1	0	0	1
永 平 寺 町		1	0	0	1
嶺北消防組合		4	0	0	4
鯖江・丹生消防組合		2	0	0	2
南越消防組合		12	0	0	12
敦賀美方消防組合		3	0	0	3
若狭消防組合		5	0	0	5
計		38	0	0	38

第7表 令和2年度事故発生状況

発生日	発生場所	区分	状況	被害	原因
なし					